

緑や樹木に関する記事 15-169

浜北区のオキナグサ

地面を向いて咲くオキナグサが、浜松市浜北区の万葉の森公園で見ごろになった。花は4月下旬ころまで楽しめる。

(平成28年3月30日 中日新聞 朝刊)

緑や樹木に関する記事 15-168

浜松の龍潭寺 ソメイヨシノやヤマブキ

浜松市北区引佐町の龍潭寺で、ソメイヨシノや黄色いヤマブキの花が咲き始めた。

湖西の正太寺 ミヤマツツジ

湖西市入出の正太寺で、ミヤマツツジが見頃を迎えている。昭和初期に植えた600株のミヤマツツジがある。

(平成28年3月29日 中日新聞 朝刊)

緑や樹木に関する記事 15-167

待望 桜咲く

静岡地方気象台は27日、静岡市で桜(ソメイヨシノ)が開花したと発表した。開花は昨年より5日、平年より2日遅い。

(平成28年3月28日 静岡新聞 朝刊)

吉田公園で「まつり」開幕

10万本のチューリップが咲き誇る「チューリップまつりinよしだ」が26日、吉田公園川尻の吉田公園で始まった。4月3日まで。

(平成28年3月27日 中日新聞 朝刊)

熱海市の市有林 就労に活用

熱海市は新年度、市有林の有効活用と若者の就労創出・移住促進を狙いに「自伐型林業」の支援事業に着手する。

(平成28年3月26日 静岡新聞 朝刊)

島田の公園 カタクリ咲く

島田市金谷富士見町の牧之原公園内のカタクリ園で、市天然記念物のカタクリの花が開花した。26日から4月3日まで遊歩道を一般開放する。

(平成 28 年 3 月 26 日 中日新聞 朝刊)

緑や樹木に関する記事 15-166

森林整備へ 4 団体協定 伊東

伊東市湯川地域の森林環境を保全するため、同地域の所有者ら 4 団体は 23 日、森林整備協定を締結した。協定を結んだのは同市湯川財産区、田方森林組合、森林総合研究所静岡水源林整備事務所、スルガフォレスト。4 団体は湯川地域の 60.15ha を「森林共同施業団地」に設定し、森林機能の保全に努める。

(平成 28 年 3 月 25 日 静岡新聞 朝刊)

緑や樹木に関する記事 15-165

浜北・万葉の森 シュンラン見頃

春に咲くランとして知られるシュンランが、浜松市浜北区の万葉の森公園に群生しており、花が見頃を迎えている。

沼津御用邸公園 西洋スイセン見ごろ

沼津市下香貫島郷の沼津市御用邸公園で、西洋スイセンが見頃を迎えている。遊歩道沿いに、38 種類 3 万株がある。4 月中旬まで楽しめる。

(平成 28 年 3 月 24 日 中日新聞 朝刊)

緑や樹木に関する記事 15-164

三保松原の羽衣の松 高圧水で土壌改良

世界遺産三保松原のシンボル「羽衣の松」の樹勢回復に取り組んでいる静岡市は 22 日、松の根元周辺の地面に高圧水で穴を掘って通気性や透水性を高める土壌改良を始めた。

(平成 28 年 3 月 23 日 静岡新聞 朝刊)

浜名湖花フェスタ開幕

浜名湖周辺で咲く春の花を楽しんでもらう「浜名湖花フェスタ 2016」の開場式が 19 日、主会場の浜松市西区館山寺町のはままつフラワーパークであり、出席者がテープカットして開幕を祝った。

(平成 28 年 3 月 20 日 中日新聞 朝刊)

緑や樹木に関する記事 15-163

南伊豆町で菜の花見ごろ

南伊豆町で菜の花が見ごろを迎え、黄色のじゅうたんが町内各地に広がり、春の訪れを告げている。

(平成 28 年 3 月 18 日 静岡新聞 朝刊)

緑や樹木に関する記事 15-162

県グリーンバンク体制強化

県グリーンバンクと県緑化推進協会は 16 日、2017 年度の合併に向けた覚書を取り交わしたを発表した。合併後の新法人名は県グリーンバンクとし、都市緑化と森林整備を一体的に推進する体制を構築する。

(平成 28 年 3 月 17 日 静岡新聞 朝刊)

「羽衣の松」樹勢回復へ

静岡市は、三保松原のシンボル「羽衣の松」の樹勢回復のため、松の負担になっている枯枝を剪定した。22 日からは、松周辺の地中にある固い砂の層「固結層」をほぐす地盤改良作業に入る。

(平成 28 年 3 月 17 日 中日新聞 朝刊)

屋上緑化苗木の供給事業

裾野市の鈴木正次産業部長は 16 日、市が推進する首都圏向けの屋上緑化用苗木の供給事業のため、本年度中に同市須山の梅園「梅の里」内に実証園地を設けることを明らかにした。

(平成 28 年 3 月 17 日 静岡新聞 朝刊)

カーネーション見ごろ

河津町峰の河津バガテル公園で、多年生観賞植物のカーネーションとキンギョソウが見ごろを迎えている。

(平成 28 年 3 月 16 日 静岡新聞 朝刊)

緑や樹木に関する記事 15-161

春野に神代桜植樹

浜松市天竜区春野町のNPO法人はるの山の楽校はこのほど、国指定天然記念物の山梨県北杜市の「山高神代桜」の苗木 2 本を同町杉の春野山の村に植樹した。

(平成 28 年 3 月 15 日 静岡新聞 朝刊)

緑や樹木に関する記事 15-160

「ゲノム編集」作物開発加速

動植物の遺伝子を効率的に改変できる「ゲノム編集」技術を使った農作物作りの研究が進み、甘いトマトや毒を作らないジャガイモなどが近い将来、商品化されるかもしれない。野外で栽培する際の環境への影響はどうか、食品としての安全性はどう確認するか、遺伝子改変商品と表示すべきか。課題がある。

(平成 28 年 3 月 14 日 静岡新聞 朝刊)

御前崎の比木東原地区

御前崎市比木東原地区の里山「散歩道福田沢」で、河津桜やヒカンザクラなどの桜並木が、見頃を迎えている。ソメイヨシノなど数種類の桜約 420 本が植えられている。

(平成 28 年 3 月 10 日 中日新聞 朝刊)

緑や樹木に関する記事 15-159

御殿場・東山旧岸邸 銘木「太郎冠者」移植

御殿場市は 8 日、新東名高速道の関連道路建設予定地にある御殿場市内の民家で江戸時代から植栽されてきたツバキの銘木「太郎冠者」を岸信介元首相が晩年を過ごした同市東山の旧岸邸に移植した。

(平成 28 年 3 月 9 日 静岡新聞 朝刊)

「御幸通り」の景観整備

静岡市葵区の市中心部を走る主要道路「御幸通り」の景観整備をめぐり、田辺信宏市長は 8 日の定期会見で「全部徳川四百年の江戸時代風の景観にするということではない。各論はこれから議論する」と述べ、なまこ壁や屋根瓦を配した城下町風の整備を提案する川勝平太知事の意向とは一線を画す考えを示した。

(平成 28 年 3 月 9 日 中日新聞 朝刊)

緑や樹木に関する記事 15-158

伊豆 月ヶ瀬梅林

伊豆市の月ヶ瀬梅林で梅の花が見ごろを迎えている。山の傾斜地約 6.2ha に 1500 本の梅が植えられている。

(平成 28 年 3 月 7 日 静岡新聞 朝刊)

伊豆桜 1000 本南三陸彩る

三島市のボランティア団体「三島桜プロジェクト」が宮城県南三陸町を中心に東日本大震災の被災地で、伊豆半島のご当地桜の植樹を続けている。震災直後から 54 回訪問して贈った桜は 1000 本を超えた。

(平成 28 年 3 月 7 日 中日新聞 朝刊)

春告げる「こも外し」

啓蟄の 5 日、三島市川原ヶ谷の国道 1 号の箱根松並木に取り付けられたこもの取り外し作業が実施された。三島環境緑化研究会の会員が約 190 本のこもを外した。

愛鷹森林組合も 5 日、沼津御用邸記念公園でマツに巻き付けたこもを外す作業を行った。

(平成 28 年 3 月 6 日 静岡新聞 朝刊)

希少種「帯桜」

島田市中央町の市民会館前にある早咲きのサクラ「帯桜」が 8 分咲きの見ごろを迎えた。樹齢 40 年ほどで高さ 7m。市によると、アタミザクラに似た種類だが、品種はわからない。

(平成 28 年 3 月 5 日 中日新聞 朝刊)

緑や樹木に関する記事 15-157

南伊豆に春到来 ヤシのこも外し

南伊豆町石廊崎の県道沿いで 2 日、ココスヤシ 50 本のこも外し作業が行われた。

(平成 28 年 3 月 3 日 静岡新聞 朝刊)

知事、静岡市長に質問書 御幸通り景観

静岡県の川勝平太知事は 2 日、静岡市中心部の主要道路「御幸通り」の景観づくりについて、田辺信宏市長宛に質問書を提出した。市長は県に提出した回答書で「今後、県、市で連携して目指す姿を共有し、役割分担しながら取り組みを具体化したい。ご協力をお願いしたい。」と記載。一方で、市長は記者会見で「市が景観行政団体。私たちの責任で担う。」と述べた。知事は回答書と記者会見の中身が正反対ではないかと批判。

(平成 28 年 3 月 3 日 中日新聞 朝刊)

緑や樹木に関する記事 15-156

細江の長楽寺 梅のトンネル

浜松市北区細江町の長楽寺で「梅のトンネル」が、見頃を迎えている。約 50m の石段の両脇に白梅が並び、香りを漂わせている。

(平成 28 年 3 月 2 日 中日新聞 朝刊)

ツクシ摘み 園児歓声

西伊豆町大田子の藤井駒一さん宅の畑で、ツクシがすくすくと成長し、本格的な春の到来を告げている。1日、町立認定こども園の2~3歳児8人が訪れ、一面に広がるツクシを観賞した。

(平成28年3月2日 静岡新聞 朝刊)

緑や樹木に関する記事 15-155

大室山で山焼き

伊東市の大室山の山焼きが28日にあり、伊豆に本格的な春の訪れを告げた。山焼きは若草を早く芽生えさせるため、鎌倉時代から伝統的に続けとされる。

(平成28年3月1日 中日新聞 朝刊)

緑や樹木に関する記事 15-154

「第1回由比八千代桜まつり」開催

「第1回由比八千代桜まつり」が28日、静岡市清水区由比八千代地区の西山寺阿僧土地改良区で開かれた。10年前に約300本の河津桜が植えられた。

(平成28年2月29日 静岡新聞 朝刊)

函南町の柿川沿い 河津桜見ごろ

函南町の畑毛せせらぎ公園周辺の柿沢川沿いで河津桜約400本が見ごろを迎えている。3月5日には、「第12回かなみ桜まつり」が開催予定。

(平成28年2月28日 静岡新聞 朝刊)

浜岡砂丘で河津桜見ごろ

御前崎市池新田の浜岡砂丘白砂公園近くの河津桜の並木が見頃を迎えている。約600mにわたって250本が並ぶ。

(平成28年2月27日 中日新聞 朝刊)

岩本山公園の梅見頃

富士市の岩本山公園の梅が見ごろを迎え、富士山との絶景を撮影しようと多くの写真愛好家が訪れている。

(平成28年2月27日 静岡新聞 朝刊)

緑や樹木に関する記事 15-153

焼津の朝比奈川 河津桜

焼津市関方の朝比奈川河川敷で、200本の河津桜が見頃を迎えている。見ごろは3月10日まで。

(平成28年2月26日 中日新聞 朝刊)

緑や樹木に関する記事 15-152

桜開花 ほぼ平年並み

日本気象協会は24日、今春の桜(ソメイヨシノ)の開花予想を発表。九州は平年より遅く、東北では平年並みか早くなる見込み。ほかの地域はほぼ平年並みとみている。

(平成28年2月26日 中日新聞 朝刊)

緑や樹木に関する記事 15-151

三保松原 専門家が効果検証

世界遺産の三保松原の松林保全に向けて、県は22日、松枯れ対策などの専門家らによる現地視察を行った。東大の太田猛彦名誉教授ら7人が、羽衣の松近くの松林の状況を調査したり、伐倒駆除を行った幹の断面を観察したりして、対策の効果を検証した。

(平成28年2月23日 静岡新聞 朝刊)

緑や樹木に関する記事 15-150

三保松原 魅力を後世に

三保松原がもつ自然と文化資源の価値を考える「三保松原学シンポジウム」が20日、静岡市清水区のマリナーコートであった。ふじのくに地球環境史ミュージアムの安田喜憲館長が講演した。「行政は生態系を壊す農薬を使わない方法で保全を考えてほしい」と訴えた。

(平成28年2月21日 中日新聞 朝刊)

「修善寺梅林」紅白の花見ごろ

伊豆市の観光名所と知られてる修善寺梅林の梅の花が見ごろを迎えている。広さ3haの丘陵地に、樹齢100年を超える古木から若木まで約20種1000本の梅が植えられている。

(平成28年2月20日 静岡新聞 朝刊)

緑や樹木に関する記事 15-149

住民手作りのサクラ堤防

浜松市西区大山町の住民たちが、荒れ放題だった花川沿いの堤防を10年がかりで河津桜の並木に整備し、20日から、初めての東大山さくらまつりを催す。

(平成28年2月19日 中日新聞 朝刊)

緑や樹木に関する記事 15-148

河津桜いよいよ満開

早咲き桜として知られる河津町の河津桜が今週末にも満開を迎える。河津川沿い約4キロに約800本が植えられ、既に8分咲きほど。

(平成28年2月18日 静岡新聞 朝刊)

緑や樹木に関する記事 15-147

梅の花見ごろ 富士宮

富士宮市上稲子の新稲子川温泉ユー・トリオに隣接する梅林で、梅の花が見ごろを迎えた。小梅やしだれ梅など多彩な品種の約100本が立ち並ぶ。

(平成28年2月17日 静岡新聞 朝刊)

サクラ満開 南伊豆に春

南伊豆町の青野川両岸に広がる河津桜の桜並木が満開になった。川沿いの4.2キロに800本が咲き誇る。例年より10日ほど開花が早く、見頃は今月下旬まで。

(平成28年2月17日 中日新聞 朝刊)

緑や樹木に関する記事 15-146

花商談会を一本化

県内全域の花の鉢物・花壇苗の生産者が一堂に会する商談会「花の都しずおか大商談会2016」が17日、富士市で開かれる。これまで東部と西部で別業者がそれぞれ行っていた商談会を初めて一本化。マーガレットやクレマチスなどの鉢花が多い東部と、観葉植物やハーブ、洋ラン、多肉植物が多い中西部の業者73社が出展する。

(平成 28 年 2 月 16 日 静岡新聞 朝刊)

緑や樹木に関する記事 15-145

藤枝の瀬戸川沿いで祭り

藤枝市瀬古の瀬戸川沿いで 13 日、梅祭りが始まった。入場無料。南高梅など 4 種の白梅計 130 本は植えられている。今月下旬ごろから見ごろになりそう。

(平成 28 年 2 月 14 日 中日新聞 朝刊)

早咲き大知波桜 地域の宝に

カワヅザクラより早咲きとされるカンザクラの木を増やして地元の名物にしようと、湖西市大知波の住民らが挿し木による若木の育成を始めた。昨年 6 月に「大知波桜を守る会」を結成。今年は 1 月下旬から咲き始め、今は 8～9 分咲きの見ごろに。

(平成 28 年 2 月 13 日 静岡新聞 朝刊)

相良梅園「早咲き」見ごろ

牧之原市片浜の相良梅園で、早咲きの白梅や紅梅が見ごろを迎えている。約 1.5ha の園内には、白加賀梅や南高梅などの白梅を中心に 20 種、700 本が植わっている。

(平成 28 年 2 月 13 日 中日新聞 朝刊)

緑や樹木に関する記事 15-144

沼津御用邸記念公園 国指定名勝へ

沼津市は、1983年に造営された沼津御用邸記念を起源とする沼津御用邸記念公園の名勝指定に向けた作業に入った。既に県を通じて公園の概要を記した意見具申書を文化庁に提出した。

(平成 28 年 2 月 12 日 静岡新聞 朝刊)

河津桜まつり開幕

早咲き桜の名所・河津町で 10 日、河津桜まつりが開幕した。今年の開花は昨年より 1 週間ほど早めだが、いまは 1～2 分咲き。濃いピンク色の花は、20 日以降に見頃となりそう。

(平成 28 年 2 月 11 日 中日新聞 朝刊)

三保松原 神の道 危険調査開始

静岡市と県は 9 日、世界文化遺産富士山の構成資産「三保松原」につながる松並木「神の道」で、樹齢 100 年以上の松の損傷状況を確認する危険度調査を始めた。月内に 10 本の木を調べ、3 月までに保全に向けた対策を検討する。

(平成 28 年 2 月 10 日 中日新聞 朝刊)

緑や樹木に関する記事 15-143

沼津市で菜の花満開

沼津市大平の JA なんすん大平支店前の畑で、菜の花が満開となり、富士山を背景に鮮やかに咲き誇っている。
(平成 28 年 2 月 9 日 中日新聞 朝刊)

緑や樹木に関する記事 15-142

御前崎の河津桜 ポスターで PR

御前崎市の早春の観光名所になっている浜岡砂丘近くの河津桜の並木の PR ポスターとチラシが完成した。花は今月末に満開となる。
(平成 28 年 2 月 8 日 中日新聞 朝刊)

梅園に春が来た 磐田で開花

磐田市上野部の豊岡梅園で、梅が咲き始めた。例年に比べ数日早い。10日から一般開放する。約 13ha の園内に 3000 本が植わる。
(平成 28 年 2 月 7 日 中日新聞 朝刊)

紅白の梅 早くも最盛期

熱海市の熱海梅園で開催中の梅まつりが、早くも最盛期を迎えた。週末の 6 日は県内外から大勢の観光客が詰めかけ、見頃となった紅白の梅とともに多彩な催しを楽しんだ。
(平成 28 年 2 月 7 日 静岡新聞 朝刊)

羽衣の松 樹勢回復策

世界遺産富士山の構成資産三保松原のシンボル「羽衣の松」の樹勢が衰えている問題で県、市でつくる保全実行委員会は 5 日、地中にある「固結層」に穴を開けて水や空気の流れを回復させる工法の実施を決めた。
(平成 28 年 2 月 6 日 静岡新聞 朝刊)

菜の花や桜 競演

県内唯一の有人島の熱海市初島で、菜の花や桜、チューリップなどの色とりどりの花が例年より 2 週間以上早く咲き誇っている。
(平成 28 年 2 月 5 日 静岡新聞 朝刊)

緑や樹木に関する記事 15-141

あたま桜ライトアップ

熱海市の糸川遊歩道に植栽されている早咲き品種の「あたま桜」が、早くも最盛期を迎えた。夜間のライトアップも好評で、大勢の観光客らが連日、幻想的な雰囲気の中で一足早い春を楽しんでいる。

(平成 28 年 2 月 4 日 静岡新聞 朝刊)

緑や樹木に関する記事 15-140

岩本山公園 梅と桜PR

園内の梅と桜をPRするイベント「絶景富士山まるごと岩本山」が 1 日、富士市の岩本山公園で開幕した。4 月 10 日までの期間中、市民有志や富士山観光交流ビューローなどが週末を中心に多彩なイベントを繰り広げる。

菜の花とあたま桜“競演”

熱海市のアカオハーブ&ローズガーデン内の高台で、菜の花とあたま桜が早くも咲き誇っている。

(平成 28 年 2 月 3 日 静岡新聞 朝刊)

緑や樹木に関する記事 15-139

土肥桜 初のまつり

伊豆市観光協会土肥支部は 30 日、土肥地区で咲く「土肥桜」を PR する初の土肥桜まつりを同市の松原公園で開いた。

(平成 28 年 2 月 1 日 静岡新聞 朝刊)

緑や樹木に関する記事 15-138

沼津市「築山」整備地 移植予定の松

沼津市は 28 日、同市本で整備を進める津波避難用高台「築山」の敷地内にあり、昨年 4 月に移植のため新しい根を生えさせる「根回し作業」を行った松 3 本の発根状況を調査した。日本樹木医会県支部長の正木伸之さんらが確認したところ、2 本は発根が思わしくなかった。少なくとも、あと 2 年は様子を見てから移植に耐えられるか判断するべきだという。

伊豆の国市 北條寺 ロウバイ見ごろ

鎌倉幕府の執権北条義時の墓がある伊豆の国市南江間の北條寺で、ロウバイの花が見ごろを迎えている。境内の道沿いに約 200 本のロウバイが黄色の花を咲かせている。

(平成 28 年 1 月 29 日 静岡新聞 朝刊)

緑や樹木に関する記事 15-137

富士宮・諏訪八坂神社 ケヤキ樹勢回復

富士宮市立袖野小学校に隣接する諏訪八坂神社でこのほど、市の保存樹に指定されている巨大なケヤキの樹勢回復工事が完了した。工事は 12～20 日、軽石や竹筒を活用し、土壌を軟らかくする改良工事を行った。地元住民や児童らが地域のシンボルを守り、後世に伝える意識を新たにした。

(平成 28 年 1 月 28 日 静岡新聞 朝刊)

緑や樹木に関する記事 15-136

西伊豆町・宇久須 早咲き椿寒桜見頃

西伊豆町宇久須の宇久須神社で早咲きの椿寒桜が見頃を迎えている。例年より 3～4 週間早い。カンヒザクラとシナミザクラの交配種で、薄いピンクの花びらがツバキのように内側に丸まって咲くのが特徴。

(平成 28 年 1 月 25 日 静岡新聞 朝刊)

「森の力」樹木生育順調

もりづくり県民税を財源とする「森の力再生事業」によって間伐した森林に対する県のサンプル調査で樹木の生育が順調に推移していることが分かった。樹高と胸高直径で算定する「経常比」の値から災害に強い森林への移行が進んだことが分かった。

(平成 28 年 1 月 24 日 静岡新聞 朝刊)

緑や樹木に関する記事 15-135

浜松新野球場 150～180 億円

県交通基盤部は 21 日、浜松市西区で建設構想を策定中の新野球場について、県議会最大会派の自民改革会議に整備概要を説明した。全体事業費を 150 億～180 億円程度と概算して今後精査する方針を示し、2016 年度予算案に測量や地質調査、設計など 2 億～3 億円の関連予算を検討していることを明らかにした。

(平成 28 年 1 月 22 日 静岡新聞 朝刊)

緑や樹木に関する記事 15-134

帯笑園(沼津)著名人来訪記録を復刻

国の登録記念物「帯笑園」の魅力を発信する帯笑園保存会はこのほど、江戸時代から明治時代にかけて同園を訪れた著名人の記録をまとめた「帯笑園撮録」を復刻した。

(平成 28 年 1 月 21 日 静岡新聞 朝刊)

緑や樹木に関する記事 15-133

あたま桜 開花進む

熱海市内各所で、早咲き品種「あたま桜」の開花が例年より2週間ほど早く進んでいる。糸川遊歩道では16日からライトアップする。

(平成 28 年 1 月 16 日 静岡新聞 朝刊)

フラワーパーク大温室 展示替え

はままつフラワーパークの大温室クリスタルパレスが16日から、「バレンタインガーデン」と銘打った展示に替わる。ガーベラやコデマリ、ランタンキュラスなど75種類、3300余りの切り花や鉢物を使った装飾で彩られ、来園者を楽しませそうだ。

(平成 28 年 1 月 16 日 中日新聞 朝刊)

緑や樹木に関する記事 15-132

スギ花粉、例年より早く

日本気象協会は14日、今春のスギ花粉の飛散予測を発表した。西日本や東日本では例年より数日早い2月上旬から飛び始める見込み。

(平成 28 年 1 月 15 日 静岡新聞 朝刊)

早咲き日本一 土肥桜名乗り

伊豆半島西海岸の伊豆市土肥地区で、ご当地桜の土肥桜が例年より2週間早く満開になった。30日に初のイベント「土肥桜まつり」を開き、「早咲き日本一」に名乗りを上げる。土肥桜は、河津桜より色が濃く、あたま桜と同時期に開花するのが特徴。伊豆市八木沢に自生していたとされる寒緋桜系の雑種で、1958年ころ見つかри、地区内に広まった。

(平成 28 年 1 月 15 日 中日新聞 朝刊)

大井川鉄道沿線 花でいっぱい

経営再建中の大井川鉄道を支援しようと、沿線住民や地元の地域おこしグループが 13 日、島田市川根町の同鉄道川根温泉笹間渡駅周辺で菜の花の植え付けを行った。

(平成 28 年 1 月 14 日 静岡新聞 朝刊)

アカシア 春先取り

浜松市西区の浜名湖ガーデンパークで、多くの花が例年より早く開花している。例年だと 3 月ごろに咲くアカシアの 1 種のパールアカシアが見ごろを迎えた。ロウバイやウンナンオウバイも 2~3 週間早く黄色い小さな花を咲かせ、甘い香りを漂わせている。

(平成 28 年 1 月 14 日 中日新聞 朝刊)

緑や樹木に関する記事 15-131

クロチク 掛川で開花

掛川市掛川の染葉勝輔さん宅の裏庭の竹林でクロチクが一斉に房状の花を咲かせた。ハチクの変種クロチクは、過去の開花記録や文献などから約 120 年に一度開花すると推定されている。

久能山東照宮で白梅 開花

徳川家康を祭る久能山東照宮で、家康が駿府城に植えて育てたと伝わる白梅が開花した。熟した実が二つに割れるため、実割梅と呼ばれ、明治維新のころに駿府城から東照宮唐門下に移して植えられた。

(平成 28 年 1 月 13 日 中日新聞 朝刊)

緑や樹木に関する記事 15-130

熱海梅園でまつり開幕

早咲き日本一をアピールする熱海市の熱海梅園で 9 日、梅まつりが開幕した。4.4ha の園内にある 59 品種 472 本の梅の木のうち、300 本で花が咲き始めている。

(平成 28 年 1 月 10 日 中日新聞 朝刊)

親水公園新設へ地鎮祭

三島梅花藻の里に隣接する湧水地に新設される親水公園「三島・緑と水の杜」の地鎮祭が 8 日、現地で開かれ、関係者が「水の都・三島」の新たな名所の無事完成を祈った。

(平成 28 年 1 月 9 日 静岡新聞 朝刊)

緑や樹木に関する記事 15-129

ケヤキの大木 970 万円

県森林組合連合会静岡営業所が 7 日、同所で開いた新春初市に、川根本町の樹齢推定 800 年、末口の直系 1.2m、長さ 10m のケヤキの丸太が出品され、970 万円で落札された。

(平成 28 年 1 月 8 日 静岡新聞 朝刊)

緑や樹木に関する記事 15-128

磐田、今ノ浦川沿い 河津桜開花

磐田市中心部の今ノ浦川の岸辺では例年より早く河津桜が咲き始めた。

(平成 28 年 1 月 7 日 中日新聞 朝刊)

緑や樹木に関する記事 15-127

下田でスイセン見ごろ

下田市須崎の爪木崎でニホンスイセンが五分咲きとなり、見ごろを迎えた。暖冬のためか、平年より 1 週間ほど早め。

ロウバイ見ごろ

新年に入ってから暖かさに誘われ、森町問詰の体験型観光施設「アクティ森」では、早くもロウバイが見頃を迎えている。例年より 10 日ほど早い。

(平成 28 年 1 月 6 日 中日新聞 朝刊)

緑や樹木に関する記事 15-126

世界屋上緑化会議 2015

日本初の屋上、壁面緑化の専門家による国際会議が 2015 年 10 月 13 日～17 日に愛知県名古屋市の KKR ホテル名古屋で開催されました。延べ 400 名(うち海外 54 名)の参加者がありました。フランスは、今年 3 月、国内の商業地における新築ビルの屋上に緑化または太陽光パネルの設置を義務付ける法案が可決されました。それ以外にパリ市内に屋上と壁面緑化を合わせて 100ha 新設し、その割合を屋上菜園、緑化屋根、緑化壁で 1/3 ずつとすること、そして 1㎡当たり 160 ユーロ助成する緑化プロジェクトを行っている。2016 年はコロンビアのボゴタで開催される。

(平成 27 年 12 月 15 日 グリーンエイジ)

緑や樹木に関する記事 15-125

「水仙まつり」爪木崎で開幕

下田市の須崎半島の先端、爪木崎でこのほど、「第 50 回水仙まつり」が始まった。300 万輪のスイセンは咲き始めで、現在1分咲き。来年1月中旬には見ごろを迎える。

土肥桜早くも開花

伊豆市土肥地区で、早咲きで知られる「土肥桜」が数輪咲き始めた。例年より2週間以上早いという。

(平成 27 年 12 月 24 日 静岡新聞 朝刊)

河津桜 枝 73 本折られる

早咲きで知られる河津桜の発祥の地、河津町で一番の名所、河津川沿いの並木道で、枝が折られる被害が相次いでいる。町は 22 日までに、36 本の木で 73 本の枝の被害を確認した。町最大の観光行事の「河津桜まつり」を控え、管理する町は下田署に被害届を提出。署は器物損壊の疑いで調べている。

(平成 27 年 12 月 23 日 中日新聞 朝刊)

緑や樹木に関する記事 15-124

河津桜、枝折られる

河津町は 21 日、同町浜の河津川沿いにある河津桜の枝が、今月多数折られていた、と発表した。折られている樹木のある場所が集中していることなどから、町は人為的に折られたとみて、下田署に被害届を出すことを検討している。折られていたのは、いずれも樹齢約 40 年の河津桜の木 35 本の枝 59 本。

(平成 27 年 12 月 22 日 静岡新聞 朝刊)

緑や樹木に関する記事 15-123

クリスマスローズ ガーデンパークで販売

「クリスマスに咲くクリスマスローズ展」が 19 日、浜松市西区村櫛町の浜名湖ガーデンパークで始まった。20 日まで。会場には時期を早めて開花させた交配種と、原種など 15 種類 400 鉢が並び、300～2500 円で販売している。

(平成 27 年 12 月 20 日 中日新聞 朝刊)

富士宮 神田川ふれあい広場 来春新装オープン

富士宮市はこのほど、世界遺産富士山の構成資産、富士山本宮浅間大社に隣接する神田川ふれあい広場の再整備に着手した。「水と緑の空間創出」をコンセプトに、来春の新装オープンを目指す。

(平成 27 年 12 月 20 日 静岡新聞 朝刊)

秋咲きザクラ人気

裾野市の農業の祭典「市農業まつり」がこのほど、市民文化センターで開かれた。東日本大震災後に山形市から本県に移住し、農場を構えた石井重久さんが開発した秋咲きザクラ「裾野さくら」の展示販売を行った。

(平成 27 年 12 月 19 日 静岡新聞 朝刊)

緑や樹木に関する記事 15-122

第 31 回都市公園等コンクール 設計部門国土交通大臣賞

新宿区立おとめ山公園が第 31 回都市公園等コンクール 設計部門国土交通大臣賞を受賞した。設計は中央大学理工学部人間総合理工学科環境デザイン研究室、(株)東京ランドスケープ研究所。

(平成 27 年 12 月 15 日 環境緑化新聞)

緑や樹木に関する記事 15-121

献上梅 慎重に枝切り

熱海市は 16 日、皇室に献上する熱海梅園の紅白梅の枝切りを行った。天皇陛下の誕生日をお祝いする恒例行事で 47 回目。22 日に市職員が宮内庁や交流のある英国、韓国両駐日大使館などに届ける

(平成 27 年 12 月 17 日 静岡新聞 朝刊)

あたま桜開花

熱海市が「日本で最も早く咲く桜」と PR している市の木「あたま桜」が 15 日、早くも市内で開花した。まだ咲き始めの状態だが、比較的温暖な気候が続いた影響で例年より 2～3 週間早く、見頃は 1 月中になりそう。

(平成 27 年 12 月 16 日 静岡新聞 朝刊)

はままつフルーツパーク 入園者 100 万人突破

浜松市北区都田町のはままつフルーツパーク時の栖の入園者が 13 日、100 万人を突破し、入り口で記念イベントが開かれた。100 万人は、リニューアルした 2013 年 4 月から数えた。

(平成 27 年 12 月 15 日 中日新聞 朝刊)

緑や樹木に関する記事 15-120

柳並木を化粧直し

三島市大宮町の桜川沿いの柳並木で 8 日、新年に備えた恒例の枝打ちが実施された。近隣の造園業者 7 人が手際よく柳を化粧直した。白滝公園付近から三嶋大社の西までの約 350m で、高さ 8～10m ほどの約 30 本を整備した。

広見公園のバラ園充実へ

富士市の小長井市長は9日の市議会11月定例会の一般質問で、来年の「全国バラサミット」に向け、広見公園にあるバラ園の充実を図る考えを示した。サミットはロゼシアターと、バラ園がある中央公園がメイン会場。サミット期間中は広見公園にも関係者を招く。

(平成27年12月10日 静岡新聞 朝刊)

緑や樹木に関する記事 15-119

ようやく 紅葉盛り

袋井市の法多山尊永寺と油山寺で、例年より1~2週間遅れて紅葉が盛りを迎えた。今年は秋が暖かった影響とみられ、初冬の境内一帯が鮮やかに彩られている。

浜名湖ガーデンパーク シクラメン見ごろ

珍しい青紫色のシクラメンが、浜松市西区の浜名湖ガーデンパークで見ごろを迎えている。3月ごろまで花と香りを楽しめる。植えられているのは、花の新品種コンテストでフレグランス賞を受賞した「セレナーディア」という品種。約40mの「青いシクラメンの小径」に昨年からは植え始め、1500株ほどになった。

(平成27年12月9日 中日新聞 朝刊)

緑や樹木に関する記事 15-118

浜松防潮堤 完成は19年度

静岡県は7日、浜松市沿岸部で整備を進めている防潮堤の完成時期が2019年度になる見通しを示した。同日、市内で開かれた市沿岸域防潮堤整備推進協議会の会合で明らかにした。

(平成27年12月8日 中日新聞 朝刊)

緑や樹木に関する記事 15-117

紅葉の乾通り 今年も大人気

紅葉が見ごろを迎えた皇居・乾通りの一般公開が5日、始まった。東京駅側の坂下門から北の丸公園側にある乾門に抜けるルートは、沿道のカエデの葉が赤や黄色に色づき始めている。9日まで毎日、午前10時から午後3時半までに実施している。

(平成27年12月6日 静岡新聞 朝刊)

緑や樹木に関する記事 15-116

竹チップ 業者に提供

荒れた放置竹林の活用を進めようと、静岡県西部農林事務所と引佐森林組合が中心となり、浜松市西区で伐採した竹をチップ状に加工し、希望者に提供した。西区大久保の地権者が竹林などを整備する県の補助事業を活用し、6,600 m²の竹林を今春伐採した。農林事務所などは10月中旬、粉碎機を使って、竹をチップ状にし、利用を希望する造園業の田中造園に提供した。

(平成27年12月4日 中日新聞 朝刊)

緑や樹木に関する記事 15-115

裏山の竹林伐採 “桜の園”に再生

下田市立朝日小学校の裏山で2日、児童23人が竹林を伐採した斜面に桜の苗木8本を植えた。裏山の竹林は約1.3haあり、手入れもされずに放置されていた。このため、一般社団法人日本自然環境保全協会が地権者の了解を取り、県の事業を活用して今年8月から10月に竹林3万本を伐採し、更地にした。

(平成27年12月3日 中日新聞 朝刊)

緑や樹木に関する記事 15-114

ヒマラヤザクラ見頃

ネパールの故ビレンドラ元国王から贈られた種で育てられた複数のヒマラヤザクラが、熱海市の渚親水公園や県立熱海高下の斜面などで開花している。1967年に伊東市を訪れた元国王に熱海植物友の会が桜と梅の種子を献上した返礼として、68年に約900粒寄贈された。あと1～2週間は楽しめそう。

(平成27年12月2日 静岡新聞 朝刊)

緑や樹木に関する記事 15-113

浜松苗木 1500本、200人植える

浜松市沿岸部で建設中の防潮堤で29日、市民たちが斜面にクロマツなどの苗木1500本を植えた。浜松造園環境緑化事業連合会のメンバーから指導を受けて、植えた。

(平成27年11月30日 中日新聞 朝刊)

はままつフラワーパーク 盆栽展示始まる

浜松市西区のはままつフラワーパークで27日、趣味で育てた盆栽の展示会「和風盆栽展」が始まった。29日まで。

(平成27年11月28日 中日新聞 朝刊)

緑や樹木に関する記事 15-112

老齢木 緊急調査へ

世界遺産富士山の構成資産三保松原でマツに亀裂が入り伐採したことを受け、静岡市と県は共同で老齢木の緊急調査を行う。特殊な樹形のマツのデータを集め、危険度の把握とともに年度内に管理マニュアルを開発する方針。関連費用は1千万円。市は「神の道」から「羽衣の松」までの老齢木 10 本ほどを選定し、幹の傾きや空洞、腐朽の有無などを調べる。樹木の形を3D デジタルで解析するなどの手法を検討している。

「森岡の家」訴訟 浜松市、争う姿勢

浜松市が解体工事を進めている市施設「森岡の家」の保存を求める『森岡の家』市民の会のメンバーが鈴木康友市長を相手に解体工事費の支出差し止めなどを求めた住民訴訟の第 1 回口頭弁論が 27 日午前、静岡地裁で開かれた。市側は著しい不当性はないとして請求棄却などを求める答弁書を提出し、争う姿勢を示した。

(平成 27 年 11 月 27 日 静岡新聞 夕刊)

緑や樹木に関する記事 15-111

森林づくり県民税 税額維持し5年延長

県は、荒廃森林の再生整備の財源にする「森林づくり県民税」の年間課税額について、2016 年度以降も現行と同じ個人 400 円、法人千～4 万円とする方針を決めた。課税期間を 20 年度まで 5 年間延長するための条例案を 12 月 1 日開会の県議会 12 月定例会に提出する。年間の税収を 9 億 7 千万円程度と見込み、全額を「森の力再生事業」に充てる。

(平成 27 年 11 月 26 日 静岡新聞 朝刊)

緑や樹木に関する記事 15-110

熱海の植物研究園 29 日まで無料開放

熱海市相の原町の新技術開発財団・植物研究園は 24 日、紅葉の時期に合わせて園内の無料開放を始めた。29 日まで。今年で 3 回目で、広さ 1 万 2270 m²の庭園を自由に散策できる。

(平成 27 年 11 月 25 日 静岡新聞 朝刊)

緑や樹木に関する記事 15-109

修善寺町 虹の郷でライトアップ

伊豆市の修善寺虹の郷で 30 日まで、紅葉シーズンに合わせた夜間イベント「もみじライトアップ」が開かれている。日本庭園にある菖蒲ヶ池周辺や、「匠の村」に続く約 1 千本のもみじ林などに照明が取り付けられ、木々を照らし出している。

(平成 27 年 11 月 24 日 静岡新聞 朝刊)

白糸の滝に紅葉の季節

世界遺産富士山の構成資産の一つ、白糸の滝で、紅葉のシーズンを迎えた。同滝の観光ガイドによると、比較的暖かい日が続いた影響で、「色づきはいまひとつの状況」という。

名園「東海第一園」30 日まで特別公開

普段が非公開としている伊豆市の修善寺の庭園「東海第一園」の特別公開が 30 日まで、同所で行われている。1905 年に造営された回遊式庭園で、皇太子時代の明治天皇が「東海第一の名園」と称賛した。

(平成 27 年 11 月 22 日 静岡新聞 朝刊)

方広寺ライトアップ

浜松市北区引佐町の方広寺で 21 日夜、境内のライトアップが始まった。本堂の裏の「羅漢の庭」や国指定重要文化財の「釈迦三尊像」などが光を帯び、幻想的な美しさを醸し出している。29 日まで。

(平成 27 年 11 月 22 日 中日新聞 朝刊)

小山でまつり開幕

小山町藤曲の豊門公園で 20 日、「もみじまつり」が開幕した。鮮やかな赤色に染まったモミジの大木をライトアップし、幻想的な空間を演出している。22 日まで。

(平成 27 年 11 月 21 日 静岡新聞 朝刊)

御用邸公園の木“検診”

木や森林保護の専門家である樹木医が 20 日、沼津市下香貫の沼津御用邸記念公園で、園内のマツやフジに倒木や幹折れの危険がないか確認した。日本樹木医会県支部の 13 人が研修で訪れた。研修は 1991 年の樹木医制度開始以来、県内各地で年 5 回ほど行っている。

(平成 27 年 11 月 21 日 中日新聞 朝刊)

緑や樹木に関する記事 15-108

“備中松山城”大型盆栽 岡山の高梁市長視察

国に指定重要文化財の備中松山城を 2 分の 1 サイズで再現した大型盆栽を展示中の三島市一番町の楽寿園を 19 日、高梁市長が視察した。

(平成 27 年 11 月 20 日 静岡新聞 朝刊)

緑や樹木に関する記事 15-107

吉田・自彊小学校で住民と鉢植え

吉田町自彊小学校の 5 年生 57 人が、学校花壇を世話している住民団体「自彊小ガーデン」とともに、同校でパンジーの花苗を植え替えた。

(平成 27 年 11 月 19 日 中日新聞 朝刊)

緑や樹木に関する記事 15-106

「晩秋の彩り」ピンク色皇帝ダリアが鮮やかに開花

静岡市葵区牛妻の市賤機都市山村交流センター「安倍ごころ」で、3～4mほどに背を伸ばした皇帝ダリアが鮮やかなピンク色の花を咲かせ、見ごろを迎えている。

早くも梅開花

早咲きの梅の名所として知られる熱海市の熱海梅園で 16 日、早くも梅の初開花が確認された。最近 10 年間で 4 番目の早さで、ここ数年早めの開花が続いている。

(平成 27 年 11 月 18 日 静岡新聞 朝刊)

“伊豆の瞳” 紅葉映え

伊東市の一碧湖で紅葉が見頃を迎え、散策する住民らを楽しませている。

(平成 27 年 11 月 18 日 中日新聞 朝刊)

緑や樹木に関する記事 15-105

海風に揺れる黄色いツワブキ

松崎町の花に指定されている「ツワブキ」が、町内各地で黄色い花を咲かせている。日当たりのよい海岸近くに群生しやすいのが特徴で、花が少ない晩秋に開花する。

(平成 27 年 11 月 17 日 静岡新聞 朝刊)

「もみじまつり」開幕

「日本一遅い紅葉の名所」とPRしている熱海市の熱海梅園で 14 日、もみじまつりが開幕した。12 月 6 日まで。

休耕地でコスモス見頃

西伊豆町大田子地区の太田川沿いの休耕地で、地元住民が整備したコスモス畑の花が見ごろを迎えている。

(平成 27 年 11 月 15 日 静岡新聞 朝刊)

緑や樹木に関する記事 15-104

ドウダンツツジ見ごろ

島田市相賀の「どうだん原」にあるドウダンツツジが真っ赤に色づき、ハイカーらの目を楽しませている。見ごろは今月末まで。

森岡の家 木々のみに

浜松市による静岡銀行創業者邸宅跡「森岡の家」の解体工事が進んでいる。保存を求めて静岡地裁に提訴した「森岡の家」市民の会の口頭弁論が 27 日に開かれるが、すでに書院造りの居宅や江戸時代後期の土蔵などは姿を消し、庭園の木々を残すだけになった。

(平成 27 年 11 月 13 日 中日新聞 朝刊)

朱色の寸又峡 紅葉見頃

川根本町の寸又峡温泉付近の紅葉が見頃を迎えている。数日前からの冷え込みで例年並みになった。

(平成 27 年 11 月 13 日 静岡新聞 朝刊)

緑や樹木に関する記事 15-103

国1松並木にこも巻き

三島市内の造園業者で構成する三島環境緑化研究会はこのほど、同市川原ヶ谷の国道 1 号沿いの松並木に恒例のこも巻きを施した。冬場の病虫害駆除へ会員約 20 人が約 190 本にこもをまいた。

(平成 27 年 11 月 12 日 静岡新聞 朝刊)

緑や樹木に関する記事 15-102

黄色い菊で五重の塔

藤枝菊花会による菊花展が、藤枝市田中の田中城下屋敷で開かれている。入場無料、20 日まで。

(平成 27 年 11 月 11 日 中日新聞 朝刊)

沼津御用邸記念公園 松に「こも巻き」

愛鷹山森林組合は 8 日、沼津市の沼津御用邸記念公園で、松を害虫から守る「こも巻き」を行った。

(平成 27 年 11 月 11 日 静岡新聞 朝刊)

緑や樹木に関する記事 15-101

県優秀技能者に(有)富士昌造園の村田さん

県は7日までに、極めて優れた技能を持ち後進の育成に努めた優秀技能者や職業訓練功労者など34個人、1事業所を発表した。優秀技能者26人には当協会会員の(有)富士昌造園の村田昌弘氏が含まれている。

(平成27年11月8日 静岡新聞 朝刊)

緑や樹木に関する記事 15-100

多彩な菊花作品並ぶ

富士市菊花会の第32回菊花展が23日まで、同市の富知六所浅間神社で開かれている。

(平成27年11月6日 静岡新聞 朝刊)

菊川 丹精した菊 200点

菊川市花の会の市菊花展が、市役所前のふんすい広場と市中央公民館多目的ホールで開かれた。

(平成27年11月6日 中日新聞 朝刊)

緑や樹木に関する記事 15-99

フラワーパークで見ごろ アメジストセージ

紫水晶の色合いに似ているアメジストセージの花が、浜松市西区館山寺町の「はままつフラワーパーク」で見ごろを迎え、深まる秋に彩りを添えている。

(平成27年11月4日 中日新聞 朝刊)

熱海・アカオ 秋バラ咲き始め

熱海市のアカオハーブ&ローズガーデンで、「秋バラ」が咲き始めている。ダリアやペゴニアは各所で見ごろを迎え、県民に無料開放した3日は大勢の観光客でにぎわった。

(平成27年11月4日 静岡新聞 朝刊)

藤枝市が緑の基本計画案

藤枝市は、緑豊かで品格のある都市形成を目指し、新たに策定する「緑の基本計画」の計画案を明らかにした。将来あるべき姿を市民、事業者、行政それぞれが共有し、緑地の保全と緑化の推進を計画的に進めていくもので、策定へ向けたパブリックコメントを11月19日まで募集している。

(平成27年11月4日 建通新聞)

南アルプスの四季折々写真に

四季折々の南アルプスを写したフォトコンテストの作品展示会が、静岡市役所市民ギャラリーで開かれている。

(平成 27 年 11 月 3 日 中日新聞 朝刊)

緑や樹木に関する記事 15-98

浜名湖畔 花をめぐる

オータムフェスタ 2015 を開催している浜名湖ガーデンパーク内の花美の庭で 1 日、「花咲じい」を名乗る名物園芸員和久田雄一さんの庭園ガイドがあり、来場者たちに好評だった。

秋を彩るキクの品評会「浜松菊花大会」の審査が 1 日、浜松市館山寺町のはままつフラワーパークであり、盆養総合 1 位の浜松市長賞には藤田勝江さんが選ばれた。

森町合併 60 周年で発展願いモミ植樹

森町合併 60 周年記念植樹祭が、1 日行政関係者や一般市民らが参加して同町橘の町民の森で開かれ、「町が真つすぐのぼていくように」との願いをこめて、立ち姿の美しい常緑針葉樹のモミの苗木などを植えた。

(平成 27 年 11 月 2 日 中日新聞 朝刊)

伊豆・修善寺虹の郷

伊豆市の修善寺虹の郷で 9 日まで、恒例の「菊花まつり」が開かれている。

(平成 27 年 11 月 2 日 静岡新聞 朝刊)

丸菊 800 株で表現 巨大な“富士山”

世界遺産富士山を仰ぐ富士宮市下条の畑に、丸菊「クッションマム」で表現した巨大な“富士山アート”がお目見えし、見物客を楽しませている。

(平成 27 年 11 月 1 日 静岡新聞 朝刊)

三島・楽寿園で菊まつり開幕

三島市一番町の市立公園楽寿園で 30 日、菊まつりが始まった。岡山県の備中松山城を 2 分の 1 スケールで再現した大型盆栽が来場者の注目を集めている。11 月 30 日まで。

(平成 27 年 10 月 31 日 静岡新聞 朝刊)

菊で紡ぐ静岡の山と安倍川

静岡市の静秋菊花協会役員らが 3 人が 30 日、市役所に田辺信弘市長を訪ね、11 月 15 日まで開いている静岡菊花大会を紹介し、高さ 2m の作品を秘書課室内に飾った。菊花大会は葵区の護国神社境内で開催中。

浜北菊花大会

第46回浜北菊花大会が31日から、浜松市浜北区新原、浜北営農緑花木センターで開かれる。11月8日まで。

JR 浜松駅前・モザイカルチャー

JR 浜松駅北口広場にあるマスコットキャラクター「出世大家康くん」のモザイカルチャーが30日、「驚きの表情」に変わった。市内での開催まで1か月を切った「ゆるキャラグランプリ」で、インターネット投票の得票数に驚いている様子を表現している。

(平成27年10月31日 中日新聞 朝刊)朝刊)

「神の道」マツ 保全急務

世界遺産富士山の構成資産三保松原の松並木「神の道」で亀裂が見つかったマツについて、静岡市は伐採する方針を発表した。神の道のマツは樹齢200年～300年とされ、過去には台風による倒木も起きている。

東伊豆 細野高原 ススキ見頃

東伊豆町の「稲取細野高原」でススキが見頃を迎えている。町観光協会は11月15日までイベントを開催していて、県内外から多くの観光客が訪れている。

(平成27年10月30日 静岡新聞 朝刊)

植物 透明化、内部が見えた

植物の葉や茎を透明にする試薬の開発に名古屋大大学院理学研究科の栗原大輔特任助教と東山哲也教授のグループが成功した。

(平成27年10月30日 中日新聞 朝刊)

緑や樹木に関する記事 15-97

長泉のクレマチスの丘

長泉町のクレマチスの丘ヴァンジ彫刻庭園美術館の庭園で、秋バラが見頃を迎えている。開花しているのは、園内約90品種のバラのうち70品種ほど。11月上旬までは見頃が続く。

(平成27年10月29日 静岡新聞 朝刊)

緑や樹木に関する記事 15-96

秋咲き「裾野さくら」植樹

東日本大震災後に山形市から静岡県内に移住して裾野市に農場を構えた石井重久さんが品種登録中の新品種の秋咲きザクラ「裾野さくら」の普及を目指している。

(平成 27 年 10 月 28 日 静岡新聞 朝刊)

緑や樹木に関する記事 15-95

ガーデンパーク コスモスが満開

浜名湖ガーデンパークで、三色のコスモスが満開となり、深まりつつある秋の雰囲気を漂わせている。三色はキャンパスシリーズと呼ばれる濃い赤、ピンクがかかったオレンジ、黄色。11 月上旬ごろまで楽しめる。

(平成 27 年 10 月 27 日 中日新聞 朝刊)

松崎・田んぼを使った花畑

松崎町観光協会の若手協会員でつくる松崎花畑実行委員会は 25 日、同町那賀の「田んぼを使った花畑」(約 5 万 8 千㎡)で花の種まきを行った。同日は協会員の家族や有志ら屋久 0 人が参加した。

(平成 27 年 10 月 27 日 静岡新聞 朝刊)

緑や樹木に関する記事 15-94

秋バラ 1100 品種が見ごろ

河津町の「河津バガテル公園」で秋バラが見頃を迎えている。1100 品種、6 千株が植えられ、県内外から訪れた多くの人たちは気持ちよさそうに園内を散策している。

(平成 27 年 10 月 26 日 静岡新聞 朝刊)

光輝くダイヤモンドリリー

掛川市原里の加茂荘花鳥園で、ヒガンバナに似た色とりどりのダイヤモンドリリーが見ごろを迎え、25 日、展示会が始まった。11 月末まで。

(平成 27 年 10 月 26 日 中日新聞 朝刊)

天城グリーンガーデン再整備

伊豆市は、湯ヶ島の天城グリーンガーデンの再整備を計画している。工事に伴う測量設計を東日に委託した。隣接する「道の駅天城越え」に伊豆半島ジオパークビジターセンターを開設したことに伴い、一括した整備を行う。

(平成 27 年 10 月 26 日 建通新聞)

「龍の松」亀裂最長 2.3m

世界遺産富士山の構成資産三保松原でマツの老木に亀裂が見つかったことを受け、市は 23 日、松原の古木の緊急点検を実施した。周辺で特に古く、特殊な形に伸びたマツについて、倒れる危険性の有無を目視で確認した。

(平成 27 年 10 月 24 日 静岡新聞 朝刊)

緑や樹木に関する記事 15-93

横浜ゴム社員寮に苗木 521 本を植樹

三島市谷田の市立向山小の 3 年生がこのほど、同所の横浜ゴムの社員寮で植樹を行った。110 人の児童が同社の従業員 60 人の指導を受けながら 521 本、35 種の苗木を植えた。

(平成 27 年 10 月 23 日 静岡新聞 朝刊)

緑や樹木に関する記事 15-92

三保松原 「神の道」マツに亀裂

世界遺産富士山の構成資産三保松原で、御穂神社と海岸の松原を結ぶ「神の道」に立ち並ぶマツの老木 1 本の幹に亀裂が入り、倒木の危険があることが 21 日までに分かった。

花博後継「浜名湖花フェスタ」

2014 年の浜名湖花博の後継企画として民間主導で展開する「浜名湖花フェスタ 2016」が来年 3 月 19 日～6 月 12 日の計 86 日間、はままつフラワーパーク、浜名湖ガーデンパークなど浜名湖周辺の花の名所で開かれる。

(平成 27 年 10 月 22 日 静岡新聞 朝刊)

緑や樹木に関する記事 15-91

山肌鮮やか 紅葉スタート

浜松市天竜区水窪町で紅葉が始まり、山々が色づきつつある。標高約 1100m の山住峠付近では、モミジなどが赤や黄色に染まり、山肌を彩っている。

(平成 27 年 10 月 21 日 静岡新聞 朝刊)

緑や樹木に関する記事 15-90

伐採・植栽一貫システム

林野庁天竜森林管理署はこのほど、浜松市天竜区の急傾斜地での作業効率化を目的に行っている伐採から植栽までの一貫作業システムの実証実験報告会を同署で開いた。担当者が、生産性向上やコスト削減で効果が上がったと報告した。

(平成 27 年 10 月 20 日 静岡新聞 朝刊)

緑や樹木に関する記事 15-89

秋の彩りまつり開幕 吉田公園

吉田公園秋の彩りまつりが 17 日、吉田町川尻の吉田公園で始まった。入場無料。25 日まで。

(平成 27 年 10 月 18 日 中日新聞 朝刊)

樹木医の喜多さんが新事業

富士市の樹木医喜多智靖さんが、高齢者らが世話できなくなった盆栽を引き取り、新しい世話主を探す事業を始めた。水やりなど日常の管理は障害者施設などに委託し、販売実績に応じて育成管理費を支払う。

(平成 27 年 10 月 18 日 静岡新聞 朝刊)

緑や樹木に関する記事 15-88

「森岡の家」解体工事着手

浜松市は廃館を決めた市保有の静岡銀行創業者邸宅跡「森岡の家」の解体工事を始めた。保存を求めて9月中旬に静岡地裁に提訴した市民の会は寝耳に水と憤るとともに、係争中の工事着手に反発を強めている。

(平成27年10月16日 中日新聞 朝刊)

グランドワーク三島に国交大臣賞

三島市の NPO 法人グランドワーク三島がこのほど、都市緑化機構が優れた緑化プランを表彰する「緑の環境デザイン賞」で最高賞の国土交通大臣賞を受賞した。

(平成27年10月16日 静岡新聞 朝刊)

緑や樹木に関する記事 15-87

コスモス畑 藤枝で見ごろ

藤枝市岡部町の道の駅「玉露の里」近くにあるコスモス畑が見ごろを迎えている。コスモス畑は 3ha で地元の住民グループ「コスモスを咲かせてみよう会」が中心となり、休耕田で花を育てている。

(平成 27 年 10 月 14 日 中日新聞 朝刊)

世界バラ会議「優秀庭園賞」受賞

世界バラ会議で最高の「優秀庭園賞」に輝いた熱海市のアカオハーブ&ローズガーデンで11日、記念盾の授与式が行われた。

(平成27年10月12日 静岡新聞 朝刊)

磐田で「中遠の花」ジュウガツザクラ

磐田市敷地の獅子ヶ鼻公園「自然ふれあい広場」で、ジュウガツザクラが見頃を迎え、来園者の目を楽しませている。ジュウガツザクラは年に2回咲く。中遠地域緑化推進協議会が2001年に「中遠の花」に制定した。

(平成27年10月27日 中日新聞 朝刊)

「平和の苗木」交換

栃木県日光市の日光東照宮と広島市がそれぞれに贈呈した「フウの木」と「被爆アオギリ」の苗木の目録交換をする式典が9日、広島市で開かれた。

(平成27年10月10日 中日新聞 朝刊)

浜松・春野 針葉樹から転換 計画

浜松市天竜区春野町和泉平で陶芸工房を構える吉田克秀さんが同町砂川の山林約2.6haを確保し、針葉樹から広葉樹の森に戻すプロジェクトを始めた。

沼津特別支援学校 学校園で花壇作り

県立沼津特別支援学校中学部の生徒が8日、県造園緑化協会の会員と沼津市の同校で花壇作りに取り組んだ。

プロがアドバイス 学校園で花壇作り

沼津特別支援学校

県立沼津特別支援学校
校中学部の生徒が8日、県造園緑化協会の
会員と沼津市の同校で
花壇作りに取り組ん
だ。

中学部園芸班の16人



丁寧に花苗を植える生徒＝県立沼津特別支援学校

は2グループに分か
れ、土と腐葉土を混ぜ
てプランターや花壇に
入れた。会員からの「苗

には丁寧に土をかけて」などのアドバイスを受け、プランターには色鮮やかなパンジーやかすみ草などの花苗を置き、そつと土をかけた。約30平方メートルの花壇にはナデシコガーデンシクラメンなどを植えた。

花壇作りは生徒の作業学習の一環で、世話
は同班の生徒を中心に行う。11月に同校で開
く学習発表会では、花
苗を植えたプランター
を会場前に展示する予
定。

緑や樹木に関する記事 15-84

牧之原 花と芝生を守る会

牧之原市細江を流れる坂口谷川の河川敷で環境美化を続けている。昨年までの19年間は地元の桑田雅史さんが1人で活躍してきたが、今年になって地元住民8人が加わった。

(平成27年10月7日 中日新聞 朝刊)

緑や樹木に関する記事 15-83

避難用「築山」の本格工事に着手 沼津市

沼津市は5日、同市本で整備を進める津波避難用人工高台「築山」の本格工事に着手した。田子の浦港の浚渫土約200m³をトラック延べ40台で搬入し、重機で築山の予定地一帯に広げた。市の計画によると築山の高さは海拔約15m。周辺の松は原則として1本も切らない。

(平成27年10月6日 静岡新聞 朝刊)

緑や樹木に関する記事 15-82

県華道展 入場1万人

静岡市葵区の松坂屋静岡店で開かれている「第64回県華道展」の入場者が4日、1万人に達した。同展は5日まで。

(平成27年10月5日 静岡新聞 朝刊)

ライチョウ通じ南ア発信

国の特別天然記念物で個体数の減少が指摘されているニホンライチョウの研究者らが集う全国大会「ライチョウ会議」が24日、25日の2日間、静岡市葵区のしずぎんホールユーフォニアで開かれる。「市民で守り続ける南アルプスの自然」をテーマに、24日は南アルプスの成り立ちやライチョウの生態などを解説する市民向け公開シンポジウムを開く。25日は飼育のための卵の採取や死亡率の高いひなのケージ内保護など、保護増殖事業について研究者が報告する専門家会議を行う。

(平成27年10月4日 静岡新聞 朝刊)

校庭の芝生化中止へ

静岡市が一部の小中学校で進めていた校庭の芝生化について、池谷真樹教育局長は「費用対効果などから、これ以上の拡大を考えていない」と中止する方針を示した。

コスモスで巨大ウサギ

浜名湖ガーデンパークの秋を飾る「オータムフェスタ2015」が3日～11月8日、園内一帯で開かれる。中央の「花ひろば」には、白とピンクのコスモス40万本で表現した巨大なウサギが浮かび、開幕を盛り上げる。

(平成 27 年 10 月 3 日 中日新聞 朝刊)

緑や樹木に関する記事 15-81

「千本松原」のクロマツ移植

沼津市の景勝地「千本松原」に津波避難用の人工の山を造成する計画で、市は 1 日の市議会総務経済委員会で、根回ししたクロマツ 3 本を移植するかどうか、今冬に決めると明らかにした。

(平成 27 年 10 月 2 日 中日新聞 朝刊)

玄関先を花で彩り

玄関先を花々で彩る技術の習得を目指す「オープンガーデン講習会」が 30 日、市民生涯学習センターで始まった。ふじのくに花の都アドバイザーの岡部俊彦さんが講義し、栽培やデザイン技術を受講者約 30 人に紹介した。

(平成 27 年 10 月 2 日 静岡新聞 朝刊)

緑や樹木に関する記事 15-80

浜北区で秋の植木まつり

浜松市内の JA 組合員らが植木や観葉植物を展示販売する「秋の植木まつり」が 10 月 3 日～5 日、JA とびあ浜松北営農緑花木センターで開かれる。

(平成 27 年 10 月 1 日 中日新聞 朝刊)

緑や樹木に関する記事 15-79

森の力再生事業 16 年度以降も継続

森の力再生事業について川勝知事は、「15 年度末で目標とした 1 万 2300ha の荒廃森林の整備を完了する」との見込みを示した上で、「今後も緊急に整備が必要な荒廃森林が 1 万 1000ha あり、森林所有者による整備は困難」との状況を説明した。

(平成 27 年 9 月 30 日 建通新聞)

秋を感じるコスモス畑

浜松市東区中野町の耕作放棄地に植えられた 12 万本のコスモスが見頃を迎えている。ボランティア団体「中の町環境保全会」が丹精して育てた四色の花びらが、地元の人らを楽しませている。

(平成 27 年 9 月 29 日 中日新聞 朝刊)

古い街路樹 調査へ

国土交通省は、高度成長期以降に道路沿いや公園に植えられた樹木が弱って倒れ、歩行者や住宅を巻き込む事故が発生しているとして、事故原因、自治体の対応まどの実態調査に乗り出す。国交省は 16 年度予算の概算

要求で1千万円を計上。自治体の点検や診断マニュアルの整備状況を調べ、有識者会議で指針の内容を詰める。

(平成27年9月27日 静岡新聞 朝刊)

緑や樹木に関する記事 15-78

京都の紅葉を静岡で

駿府城公園を主会場に開かれている家康公顕彰400年記念事業の「駿府天下泰平まつり」の一環として、紅葉で有名な京都・東福寺のモミジの植樹式が23日、駿府城公園の東御門前広場で行われた。

(平成27年9月24日 中日新聞 朝刊)

裾野「ぐりんぱ」ダリア満開 色鮮やか

裾野市須山の富士山2合目の遊園地「ぐりんぱ」で、ダリアの花壇が見頃を迎えた。3500㎡ほどの敷地に植栽しているダリアは約2万本。今週末までは楽しめそう。

(平成27年9月23日 静岡新聞 朝刊)

伊豆の国 北條寺の白い彼岸花が見頃

鎌倉幕府の執権北条義時の墓所がある伊豆の国市南江間の北條寺で、白い彼岸花が見頃を迎え、訪れる人の目を楽しませている。

(平成27年9月21日 静岡新聞 朝刊)

裾野でまつり 色鮮やかコスモス一面

「第5回富士山すそのパノラマロードコスモスマつり」が19日、同市須山の遊花の里で始まった。ピンクや白、オレンジ色の花が一面に広がる。

(平成27年9月20日 静岡新聞 朝刊)

緑や樹木に関する記事 15-77

古代米色づき巨大な絵

菊川市下内田稲荷部地区の約45アールの水田で、色の異なる古代米を使って、巨大な絵を浮かびあがせる恒例の「田んぼアート」が見頃を迎えている。

(平成27年9月18日 中日新聞 朝刊)

緑や樹木に関する記事 15-76

県営公園4都市公園指定管理者募集

県は16日、現在の指定管理期間が2016年3月で修了する4カ所の県営都市公園について、新たな指定管理者の募集を開始した。対象は、遠州灘海浜公園、愛鷹広域公園、小笠山総合運動公園、吉田公園。

(平成27年9月17日 静岡新聞 朝刊)

浜松市に花の種 5000 袋

花と緑のまちづくりに役立てると、農林中央金庫静岡推進室は16日、浜松市に花の種5000袋を寄贈した。11年続く社会貢献活動で、計55000袋となった。

(平成27年9月17日 中日新聞 朝刊)

緑や樹木に関する記事 15-75

南ア緑化に製紙堆肥

特種東海製紙は12日までに、同社島田工場で発生する製紙汚泥を原料とした乾燥堆肥を、JR東海のリニア中央新幹線工事予定地となっている南アルプスの社有林で工事後の緑化事業に活用する意向を明らかにした。今春から堆肥の運搬を開始していて、来年秋までに約1万7千立方メートルを南アに運び込む計画。

(平成27年9月13日 静岡新聞 朝刊)

松茸食べて緑化も貢献

浜松市浜北区根堅、県立森林公園内「森の家」のレストラン松ぼっくりが、秋の味覚・マツタケと県グリーンバンクの寄付を組合わせた「松茸御膳」を15日から売り出す。「御膳」の売り上げの1%を、国土緑化推進機構の「緑の募金」を通じてグリーンバンクに寄託する。

(平成27年9月11日 中日新聞 朝刊)

緑や樹木に関する記事 15-74

「ナラ枯れ」初期から防除

県内でブナ科の樹木が枯れる「ナラ枯れ」の被害が急拡大している問題で、県は9日、市町や国の担当者らとの被害対策連絡協議会を県庁で開いた。広範囲で被害木が確認されている現状を踏まえ、初期段階から各地で適切な防除を進める方針を確認した。

ふじのくに花の都しずおか 東部推進大会

県は9日、「ふじのくに花の都しずおか東部地域推進大会」を沼津市の県東部総合庁舎で開いた。テレビで園芸番組を担当する園芸研究家小笠原誓さんが講師を務め、江戸文化と花やガーデニングなどをテーマに講演した。

(平成27年9月10日 静岡新聞 朝刊)

緑や樹木に関する記事 15-73

「ナラ枯れ」被害急増

ナラ、カシ、シイなどブナ科の樹木が枯れる「ナラ枯れ」の被害が、県内で急速に拡大している。4月から8月末までに県に報告された被害本数は1873本と、既に2014年度の5.1倍に達し、かつてない規模となった。

(平成27年9月9日 静岡新聞 朝刊)

森町・蓮華寺

秋の七草「ハギ」の花が、「萩寺」の愛称で親しまれる森町森の蓮華寺で咲き始め、赤紫やピンク色のかれんな花が参拝者を迎えている。

(平成27年9月8日 中日新聞 朝刊)

緑や樹木に関する記事 15-72

松崎町 景観指針策定へ

松崎町は本年度、町並みの保全を目的とした「景観ガイドライン」を策定する。景観計画や条例を独自に制定できる「景観行政団体」への移行を見据え、なまこ壁建築や棚田などの固有の景観資源の維持へ道筋を付ける考え。

(平成27年9月5日 静岡新聞 朝刊)

緑や樹木に関する記事 15-71

大つり橋 12月14日開業

歩行者用としては国内最長の400mとなる「箱根西麓・三島大吊橋」を整備中のフジコーは3日、公募したつり橋の愛称を「三島スカイウォーク」とし、開業日が12月14日に決まったと発表した。

(平成27年9月4日 静岡新聞 朝刊)

花のまちPRの「花」咲く

藤枝市は、一年を通して花を楽しめるまちづくりを目指す「ふじえだ花回廊事業」のPRシートを、JR藤枝駅の南北自由通路につながる階段前の床面に張った。静岡産業大の学生がデザインしたロゴマークを中央に、周囲に蓮華寺池公園のフジや瀬戸川沿いの桜、殿地区のコスモスなど、市内で楽しめる四季折々の八種の花々の写真を配した。

(平成27年9月2日 中日新聞 朝刊)

緑や樹木に関する記事 15-70

浜松駅前、根腐れ原因か

30日午後1時40分頃、浜松市中区砂山町、JR浜松駅北口の近くの歩道で、直径1.2m、高さ約11.7mの街路樹が倒れた。けが人はなかった。倒れたのは樹齢約50年のクスノキ。毎月、市内の街路樹を目視調査しているが、7月の調査では異常はなかったという。

(平成 27 年 8 月 31 日 中日新聞 朝刊)

湿地活用の先進例視察

望月義夫環境相は 29 日、静岡市葵区の麻機遊水地を訪れ、地元団体などが行っている希少植物の保全や湿地帯の活用の状況などを視察した。麻機遊水地では、行政や学識経験者、地元自治会などで組織する「巴川流域麻機遊水地自然再生協議会」を中心に、外来種駆除や子供達への環境学習、自然観察会などの催しを自然再生促進法に基づいて展開している。

モミの木 異常多発

東京電力福島第 1 原発事故で帰還困難区域となっている福島県大熊町と浪江町の山林に自生するモミの木で、幹が伸びない形態の異常が増えているとの調査結果を放射線医学総合研究所などの研究グループがまとめ、28 日付英科学誌電子版に発表した。

(平成 27 年 8 月 30 日 静岡新聞 朝刊)

高原の秋 涼しげ

伊東市富戸の伊豆シャボテン公園で、ススキを大きくしたようなパンパスグラスが見ごろを迎えた。ふわふわとした花穂が風に揺れ、高原の秋を涼しげに演出している。

(平成 27 年 8 月 29 日 中日新聞 朝刊)

緑や樹木に関する記事 15-69

南アルプスセミナー開催

静岡市は 25 日、市内高校生向けの南アルプス高山植物保護セミナーを同市葵区の県立静岡高校で開いた。南アルプスの成り立ちやニホンジカによる高山植物の食害について学んだ。

(平成 27 年 8 月 26 日 静岡新聞 朝刊)

緑や樹木に関する記事 15-68

フラワーパーク ヒマワリ鮮やか

浜松市西区館山寺町のはままつフラワーパークで、約 1 万 3000 本のヒマワリが見頃になり、花畑が鮮やかな黄色に染まった。

(平成 27 年 8 月 22 日 中日新聞 朝刊)

緑や樹木に関する記事 15-67

森の力再生事業 継続を

県町村会長の田村典彦吉田町長、県市長会副会長の石原茂雄御前崎町長と、込山正秀小山町長、菊地豊伊豆市長の4人が19日、県庁に難波喬司副知事を訪ね、事業の最終年度を迎えた県の「森の力再生事業」を継続するよう要望した。

(平成27年8月20日 静岡新聞 朝刊)

緑や樹木に関する記事 15-66

葦毛湿原回復へ考古学の手法

愛知県豊橋市の葦毛湿原で、乾燥化、森林化を食い止め、元の多様な環境に戻す大規模な作業が3年前から進められている。湿原にかぶさった土をテストを繰り返しながら取り除いて、30年以上前から見られなくなっていたサワオグルマなど5種ほどが復活した。

(平成27年8月18日 中日新聞 朝刊)

緑や樹木に関する記事 15-65

秩父宮記念公演 マリーゴールド見頃

御殿場市東田中の秩父宮記念公園でアフリカンマリーゴールドが見ごろを迎え、黄色やオレンジ色の鮮やかな花が訪れた人を楽しませている。

(平成27年8月15日 中日新聞 朝刊)

ヒマワリ1万本見頃

伊豆市八木沢の旧土肥南小近くの休耕田で約1万本のヒマワリが見頃を迎え、観光客らの目を楽しませている。

(平成27年8月15日 静岡新聞 朝刊)

緑や樹木に関する記事 15-64

タチバナが結ぶ関西圏との絆

ミカン科の絶滅危惧種「タチバナ」が自生する沼津市戸田地区の有志がタチバナの新たな活用策を探るため、タチバナの栽培の盛んな関西圏の関係者との交流に乗り出した。

(平成27年8月14日 静岡新聞 朝刊)

緑や樹木に関する記事 15-63

三保松原保全への5観点

世界遺産富士山の構成資産三保松原の景観改善と海岸保全について話し合う「三保松原景観改善技術フォローアップ会議」の技術検討ワーキング部会が11日、都内で開かれた。県が防護、景観、施設、利用・環境、長期目

標実現の5つの観点による18のモニタリング項目が盛り込まれた計画案を提示。出席した4人の委員が意見を交わした。

(平成27年8月12日 静岡新聞 朝刊)

緑や樹木に関する記事 15-62

「羽衣の松」衰弱で現地調査

県と静岡市は3日、三保松原のシンボル「羽衣の松」の樹勢が衰えている問題で、専門家を招いて現地調査した。松の近くの砂を掘って調べたところ、深さ10cmほどに固く締まった層があるのを確認。根の通水性をよくするため、水圧などで固い層を砕く対策が必要との意見で一致した。

(平成27年8月4日 中日新聞 朝刊)

緑や樹木に関する記事 15-61

富士で蓮まつり

富士市大淵の代通寺でこのほど、「蓮の華を楽しむ会」が開かれた。蓮の葉を杯に見立てて、茎から酒を味わう「象鼻杯」の実演ほか、蓮にちなんだ食材の即売、蓮茶の試飲サービスなどが行われた。

(平成27年7月28日 静岡新聞 朝刊)

緑や樹木に関する記事 15-60

熱海のジャカラнда遊歩道

熱海市が整備したジャカラнда遊歩道で25日、ボランティアグループ「梅園を美守る会」による管理保全活動が始まった。新たな観光名所を市民の手で守ろうと、会員約20人が花木の手入れや雑草取りなどに汗を流した。

(平成27年7月26日 静岡新聞 朝刊)

緑や樹木に関する記事 15-59

浜名湖ガーデンパーク ヒマワリ満開

浜松市西区村櫛町の浜名湖ガーデンパークで、夏の空の下、約4万本のヒマワリが満開になった。

(平成27年7月22日 中日新聞 朝刊)

緑や樹木に関する記事 15-58

沼津・浮島に1万5千本

沼津市の浮島地区環境保全推進会、JAなんすん浮島支店は19日、「浮島ひまわり祭」を同地区の休耕田を整備した「ひまわりらんど」で開いた。約千平米の休耕田には、5月に住民が植えた約1万5千本が満開となった。

(平成 27 年 7 月 20 日 静岡新聞 朝刊)

緑や樹木に関する記事 15-57

羽衣の松 静岡市が対応策

世界遺産三保松原のシンボル「羽衣の松」の樹勢が衰えている問題で、静岡市は 16 日、県による調査結果を踏まえた対応策をまとめた。樹勢回復のための土壌改良は、根の生長を阻んでいるとみられる地下の「固結層」を圧縮空気などで緩める改善策を実施するとした。

(平成 27 年 7 月 17 日 静岡新聞 朝刊)

緑や樹木に関する記事 15-56

フラワーガムオレンジ見ごろ

浜松市西区村櫛町の浜名湖ガーデンパークで、常緑高木のユーカリの品種の一つ、フラワーガムオレンジの花が見ごろになった。国際庭園でオレンジ色の花が周辺の緑に映えている。

(平成 27 年 7 月 16 日 中日新聞 朝刊)

緑や樹木に関する記事 15-55

磐田市豊田でセアカゴケグモ

磐田市は 13 日、同市豊田で特定外来種の「セアカゴケグモ」1 匹が見つかったと発表した。県内で見つかったのは今年が初めて。昨年は浜松市と袋井市で見つかった。

(平成 27 年 7 月 15 日 中日新聞 朝刊)

緑や樹木に関する記事 15-54

樹勢衰退 羽衣の松

世界文化遺産富士山の構成資産、三保松原を象徴する「羽衣の松」の樹勢が衰えている問題で、静岡県は 13 日、薬剤の使用や竹炭の埋設などリスクの伴う土壌改良を当面は実施しないよう静岡市に伝えた。市は県の要請を受け入れる方針。

(平成 27 年 7 月 14 日 中日新聞 朝刊)

デング熱予防へ 蚊調査

昨年、70 年ぶりにデング熱の国内感染が確認されたことを受け、県は 13 日、県内 4 カ所の公園で蚊を捕獲する生息状況調査を始めた。ウィルスを運ぶヒトスジシマカが対象で同日は沼津市の愛鷹広域公園で実施した。

(平成 27 年 7 月 13 日 静岡新聞 夕刊)

緑や樹木に関する記事 15-53

タシロランの花

環境省レッドデータブックで準絶滅危惧とされるタシロランの花が、磐田市内の山林で咲いている。
(平成 27 年 7 月 11 日 中日新聞 朝刊)

緑や樹木に関する記事 15-52

植物の素晴らしさ感じて

はままつフラワーパークを管理する花みどり振興財団の塚本こなみ理事長がこのほど、静岡新聞社グループのフリーペーパー「びぶれ浜松」に寄稿したコラムを文庫にまとめて出版した。
(平成 27 年 7 月 4 日 静岡新聞 朝刊)

緑や樹木に関する記事 15-51

浜北の住民ら 監査請求

浜松市が解体する方針を決めた市施設「森岡の家」の保存運動に携わる住民有志が 2 日、市に解体の手続きや工事費の支払いの中止などを求めた住民監査請求を市監査委員に提出した。
(平成 27 年 7 月 3 日 中日新聞 朝刊)

緑や樹木に関する記事 15-50

南アルプスエコパーク 観光ガイド養成

静岡市は、南アルプスユネスコエコパークの登録エリアに入っている葵区井川地区で、観光客らに自然や文化などの魅力を紹介するガイドの養成に乗り出した。30 日夜、地元住民を対象にした養成講座が同区の井川生涯学習交流館で始まった。
(平成 27 年 7 月 2 日 静岡新聞 朝刊)

緑や樹木に関する記事 15-49

「夕日」のヒマワリ満開

西伊豆町内の各所で、赤みが強い品種のヒマワリ「夕日」が見ごろを迎え、通り掛かった人たちの目を楽しませている。
(平成 27 年 7 月 1 日 静岡新聞 朝刊)

緑や樹木に関する記事 15-48

静岡木の子の会 写真展

「静岡木の子の会」の会員たちが、山野に自生するキノコを紹介する写真展が、浜松市浜北区尾野、県立森林公園のビジターセンター「バードピア浜北」で開かれている。30日まで。

(平成 27 年 6 月 24 日 中日新聞 朝刊)

緑や樹木に関する記事 15-47

ホオズキ鈴なり

盆飾りや料理に彩りを添える夏の風物詩ホオズキの収穫が、全国有数の生産地浜松市内で始まった。

(平成 27 年 6 月 23 日 静岡新聞 朝刊)

ハンゲショウ 吉田公園

葉の半分が白くなり、穂のような白い花を咲かせる夏の多年草「ハンゲショウ」が、吉田町川尻の県営吉田公園内の大池ほとりで見ごろを迎えている。

(平成 27 年 6 月 23 日 中日新聞 朝刊)

緑や樹木に関する記事 15-46

三保松原 守れ

富士山世界遺産登録 2 周年を前に、静岡市は 20 日、構成資産の三保松原で「三保松原感謝祭」と銘打ち、松原の保全と活用を PR する催しを開いた。メインの研修会では、下草刈りなどの保全活動に携わる市民が松枯れの仕組みへ理解を深めた。

(平成 27 年 6 月 21 日 静岡新聞 朝刊)

小山でアジサイ祭り

小山町湯船の湯船公民館周辺で 21 日、第 6 会金太郎産湯の里・湯船あじさい祭りが開幕した。28 日まで。

(平成 27 年 6 月 22 日 静岡新聞 朝刊)

緑や樹木に関する記事 15-45

屋上緑化を義務付けフランス議会

フランス議会は、国内の商業地で建物を新築する場合は屋上を一部緑化するか、太陽光パネルを設置することを義務付ける法案を可決した。カナダ・トロントでは 2009 年に、商業用と住居用の両方を対象に屋上緑化を義務付ける条例が施行されている。

(平成 27 年 6 月 15 日 環境緑化新聞)

緑や樹木に関する記事 15-44

熱海 ブーゲンビリア見ごろ

熱海市の中心街を流れる系川で、南米原産のブーゲンビリアが見ごろを迎えた。6月末まで楽しめそうで、9月と11月にも再び咲くという。

特別支援学校生が県道沿いに花植栽

富士宮市と県立富士特別支援学校富士宮分校は15日、同分校前の県道朝霧富士宮線沿いで、フラワーポットの植替え作業を行った。

(平成27年6月18日 静岡新聞 朝刊)

緑や樹木に関する記事 15-43

森岡の家 解体手続きへ

浜松市は16日、廃館決定後に保存運動が起きていた市施設「森岡の家」の建物や樹木を本年度中に決定通り解体・伐採する最終方針を関係市民団体へ通知した。早ければ、7月にも、解体工事に向けた入札手続きを始める。関係団体は解体阻止に向け、運動を継続する考えだ。

(平成27年6月17日 中日新聞 朝刊)

緑や樹木に関する記事 15-42

世界会議で優秀庭園賞

熱海市のアカオハーブ&ローズガーデンが世界バラ会連合主催の世界大会で最高賞の「優秀庭園賞」に輝いた。同ガーデンは1988年に「曾我森林自然園」としてオープン。海岸沿いの丘陵地を生かして約20万坪の敷地に約600種、4000株のバラを育てている。

(平成27年6月16日 静岡新聞 朝刊)

緑や樹木に関する記事 15-41

特別支援学校生が愛鷹広域公園で花壇づくり

沼津市大塚の県立沼津特別支援学校中学部の生徒が11日、同市の愛鷹広域公園で花壇作りを行った。花壇づくりは働く喜びを学ぶ作業学習の一環で、園芸班の生徒15人が教員6人とニチニチソウ、ヒャクニチソウを植えた。

(平成27年6月13日 静岡新聞 朝刊)

緑や樹木に関する記事 15-40

森町・ききょう

「ききょう寺」として知られる森町草ヶ谷の香勝寺で、梅雨空の下、キキョウの花が鮮やかに咲き、訪れる人たちを楽しませている。15 品種、約 4 万 5 千株のキキョウを栽培。

(平成 27 年 6 月 12 日 中日新聞 朝刊)

緑や樹木に関する記事 15-39

牧之原の公園でアジサイ見ごろ

牧之原市勝俣の秋葉山山腹にある秋葉公園で、市の花アジサイが見ごろを迎えた。8 種類、4000 株のアジサイが植栽されている。

「羽衣の松」早急に保全

世界文化遺産富士山の構成遺産、三保松原の「羽衣の松」の樹勢が衰えている問題で、県と市の担当幹部による三保松原保全実行委が 10 日、県庁で開かれた。座長の難波副知事は「羽衣の松は、まさに三保松原のシンボルだ」と訴え、県と市で連携して可能な対策から早急に取り組むことを確認した。

(平成 27 年 6 月 11 日 中日新聞 朝刊)

緑や樹木に関する記事 15-38

南アルプス 絶滅危惧など 44 重要種

静岡市は 9 日、ユネスコエコパークの南アルプスで予定されている JR 東海のリニア中央新幹線工事を前に、工事予定地などで独自に実施した自然環境調査の結果を公表した。ヒトツバテンナンショウなど事業者による環境影響調査手続きで確認されなかった動植物 11 種を含め 44 重要種を確認した。

(平成 27 年 6 月 10 日 静岡新聞 朝刊)

長泉・クレマチス

クレマチスの遅咲き品種が、長泉町東野のヴァンジ彫刻庭園美術館の庭園を紫やピンクで彩り、見頃を迎えている。

伊東・城ヶ崎 あじさいまつり

伊東市富戸の伊豆四季の花公園で、原種株数日本一を誇るアジサイが色とりどりの花を咲かせている。園内には、地元の自生種「城ヶ崎」や「伊豆の華」をはじめ「紅」「花まつり」など日本原産を中心に 230 種 3000 株ある。28 日まで。

(平成 27 年 6 月 10 日 中日新聞 朝刊)

緑や樹木に関する記事 15-37

牧之原・大鐘家

牧之原市片浜の大鐘家で「あじさい祭」が開かれ、江戸時代の庄屋屋敷に咲き誇る 35 種 12000 株のアジサイが観光客らを出迎えている。

(平成 27 年 6 月 9 日 中日新聞 朝刊)

三島市・「アジサイの丘」

三島市塚原新田の国道 1 号沿いにある「アジサイの丘」は見頃を迎えている。40 種 600 本のアジサイが色とりどりの花を咲かせている。

(平成 27 年 6 月 9 日 静岡新聞 朝刊)

緑や樹木に関する記事 15-36

伊東・四季の花公園

伊東市富戸の伊豆四季の花公園で、早咲きのアジサイが見ごろを迎えている。園内には約 230 種 3000 本のアジサイが植えられている。

裾野・コスモス種まき

裾野市須山の「パノラマ遊花の里」の農地で 6 日、コスモスの種まきが行われた。市民や企業関係者 180 人が参加した。

(平成 27 年 6 月 7 日 静岡新聞 朝刊)

掛川・加茂荘花鳥園

ハナショウブの名所、掛川市原里の加茂荘花鳥園で 5 日、約 1500 種、100 万本のハナショウブが見ごろを迎えている。

(平成 27 年 6 月 6 日 静岡新聞 朝刊)

佐鳴湖 菖蒲園 埋め立て

浜松の「初夏の風物詩」として知られる佐鳴湖の「菖蒲園」が、県の水害対策の堤防工事に伴い、埋め立てられることになった。

引佐・龍潭時

龍潭時の国指定名勝の日本庭園で、サツキが花を咲かせている。

(平成 27 年 6 月 6 日 中日新聞 朝刊)

緑や樹木に関する記事 15-35

ミシマサイコ普及へ

絶滅危惧種に指定されているセリ科の植物「ミシマサイコ」の普及を目指す「ミシマサイコの会」は2日、市立山田中で苗の移植体験を実施した。

(平成27年6月4日 静岡新聞 朝刊)

緑や樹木に関する記事 15-34

水窪「雑穀の里」復活へ

かつてはアワやヒエなどの雑穀栽培が盛んだった浜松市天竜区水窪町で住民有志が産地復活に向け動き出した。雑穀商品のニーズの高まりに注目する市内の菓子メーカーの全面協力を受け、関係者は雑穀作りで地域を盛り上げようと力を注いでいる。

(平成27年6月2日 静岡新聞 夕刊)

緑や樹木に関する記事 15-33

掛川の本勝寺 アジサイ見ごろ

「花の寺」として知られる掛川市川久保の本勝寺で1日、「紫陽花祭」が始まった。30日まで。約70品種10,000株が植えられている。

(平成27年6月2日 中日新聞 朝刊)

下田 あじさい祭

下田市で1日、「第45回あじさい祭」がスタートした。あじさい祭りのメイン会場の下田公園では、15万株、300万輪とされるアジサイの花の3割が咲き始めている。

(平成27年6月2日 静岡新聞 朝刊)

緑や樹木に関する記事 15-32

沼津 休耕地にヒマワリの苗 15,000本

沼津市の浮島地区環境保全推進会は31日、「ひまわり植栽大作戦」を同市平沼で行い、地域の景観づくりの取り組みを始めた。

(平成27年6月1日 静岡新聞 朝刊)

「みしま花のまちフェア」

三島市内が花で彩られる祭典「みしま花のまちフェア」が 30 日、同市一番町の楽寿園をメイン会場に始まった。
(平成 27 年 5 月 31 日 静岡新聞 朝刊)

「可睡ゆりの園」開園

袋井市久能の「可睡ゆりの園」が 30 日、開園した。陽気が続いて開花が早まり、黄色を中心とした早咲きのユリが来園者を楽しませている。園内では約 150 種、2 百万株のユリを栽培。
(平成 27 年 5 月 31 日 中日新聞 朝刊)

緑や樹木に関する記事 15-31

バラの花でまちづくり

バラを市町の花に制定しているなど、バラにちなんだまちづくりを進めている全国自治体の首長らが一堂に会する第 24 回ばら制定都市会議が 28 日、島田市内で開幕した。

白隠禅師生誕地に植樹

江戸時代に沼津を拠点に禅の教えを広めた白隠禅師の生家があった沼津市原の生誕地で 28 日、臨済宗妙心寺派の嶺興嶽管長を招いた記念植樹が行われた。
(平成 27 年 5 月 29 日 静岡新聞 朝刊)

緑や樹木に関する記事 15-30

磐田桶ヶ谷沼 ジュンサイの花

独特のぬめりとおつろとした喉越しの水生植物のジュンサイの花が、磐田市の桶ヶ谷沼で咲いている。県のレッドリストでは準絶滅危惧種に指定されている。

「羽衣の松」仮設の保護柵を設置

世界文化遺産富士山の構成資産、三保松原の「羽衣の松」の樹勢が衰えている問題で、静岡市は根の上部の土を観光客らが踏みつけるのを防ぐため、応急的に柵を設置して保護範囲を拡大した。
(平成 27 年 5 月 28 日 中日新聞 朝刊)

緑や樹木に関する記事 15-29

クレマチスの魅力 地元へ発信

長泉町特産のクレマチスの魅力を町民に再認識してもらおうと、町は 27 日から 31 日まで、15 品種のクレマチスを紹介する展示会を同町のウェルピアながいずみで開く。

(平成 27 年 5 月 27 日 静岡新聞 朝刊)

三保松原 無人ヘリ薬剤散布

松くい虫による松枯れ対策が課題になっている世界文化遺産富士山の構成資産、三保松原で 26 日、市が無人ヘリコプターを使って薬剤散布した。無人ヘリを使い 9 年ぶりに上空から散布した 2014 年度は、松枯れによる伐採本数が前年度の 4 分の 1 の 206 本に減り、一定の効果が確認された。

浜松花の会 節目祝う

浜松市内で花の普及活動を続けてボランティア団体「浜松花の会」は 26 日、創立 60 周年を祝う中区のクリエート浜松で開いた。

(平成 27 年 5 月 27 日 中日新聞 朝刊)

バラ 熱海で見ごろ

熱海市上多賀の観光バラ園「アカオハーブ&ローズガーデン」で、色とりどりのバラが見ごろを迎えた。今月末までが最盛期という。66ha に及ぶガーデン敷地の 3 分の 1 を占めるバラ園は 2013 年にオープン。

(平成 27 年 5 月 26 日 中日新聞 朝刊)

河津バガテル公園 春バラ 6000 本見頃

本年度から町営化した河津町の観光バラ園「河津バガテル公園」で、春バラが見ごろを迎えている。園内には約 1100 品種、6000 本が植えられている。

(平成 27 年 5 月 26 日 静岡新聞 朝刊)

不正ケシ 広がる自生地

麻薬の原料になるため、あへん法で栽培が禁止されているケシが県内で開花シーズンを迎え、保健所の担当者は除去作業に追われている。

(平成 27 年 5 月 25 日 静岡新聞 朝刊)

ハナショウブ近付く見ごろ

森町一宮の小国神社の花しょうぶ園が開園した。6 月初旬には見ごろを迎えそう。

(平成 27 年 5 月 25 日 中日新聞 朝刊)

児童が枝の剪定に挑戦

富士市広見まちづくりセンターの少年教育講座「広見こどもパークレンジャー」が 23 日、同市の広見公園で開かれた。地元の児童 36 人がバラの剪定に取り組んだ。同公園を管理する「一窓園」(鈴木泉社長)の社員や地元のボランティアに手ほどきを受けた。

(平成 27 年 5 月 24 日 静岡新聞 朝刊)

アジサイ新品種発表

種苗会社サカタのタネの掛川総合研究センターで21日、22日両日、生産者・種苗業者向け展示会「サカタフラワーパケットライアル 2015」があり、全国から延べ約400人が訪れた。最終日はアジサイの新品種「ブルーアース 碧い地球」と「プチ・ハッピー」を発表した。

(平成27年5月23日 中日新聞 朝刊)

3万本のマツ個別管理

静岡市は21日、世界文化遺産富士山の構成資産、三保松原の松林保全対策を盛り込んだ管理基本計画を発表した。具体的には、約3万本のマツを個別管理し、害虫の被害が出た木は伐採して駆除する。無人ヘリによる薬剤散布は続けるが、将来的には薬剤に頼らない害虫防除を目指す。生育環境の改善で老木の長寿命化を図るとともに密集箇所は伐採し、害虫被害木の伐採後は植栽する。

磐田のラベンダー畑

磐田市富里のハーブショップ「バルファン富里」では、約14haの畑に育つラベンダー約700株が見ごろを迎え、周辺では甘い香りが漂う。

(平成27年5月22日 中日新聞 朝刊)

緑や樹木に関する記事 15-28

ブルーベリー 浜北で収穫最盛期

鮮やかな紫色に色づいた「ブルーベリー」の収穫が、浜松市浜北区宮口の「スズキ農園」のビニールハウスで最盛期を迎えている。収穫は露地物が終了する7月中旬まで続く。

(平成27年5月21日 中日新聞 朝刊)

緑や樹木に関する記事 15-27

バラ4000株 最盛期 熱海

熱海市のアカオハーブ&ローズガーデンで、約600種4000株あるバラが最盛期を迎えた。見頃は6月初旬まで続く見込み。

(平成27年5月20日 静岡新聞 朝刊)

「メリケントキンソウ」県西部繁殖拡大

8年程前から、県西部の河川敷や公園を中心に外来植物「メリケントキンソウ」が勢力を伸ばしている。5月から6月に硬いとげを持つ果実をつけ、人がけがをする可能性もあることから自治体などが注意を呼び掛けている。

(平成27年5月19日 静岡新聞 夕刊)

緑や樹木に関する記事 15-26

バラ彩り はままつフラワーパーク

浜松市西区館山寺町のはままつフラワーパークで、約 170 品種 1000 株のバラの開花が盛りになり、初夏を華やかに彩っている。

(平成 27 年 5 月 19 日 中日新聞 朝刊)

緑や樹木に関する記事 15-25

五竜みどりまつり

裾野市観光協会は 17 日、「五竜みどりまつり」を市中央公園で開き、市民が季節の草花の販売や地元団体によるステージ発表を楽しんだ。

(平成 27 年 5 月 18 日 静岡新聞 朝刊)

島田でフェスティバル開幕

島田市野田の市ばらの丘公園で 16 日、「2015 春 島田ばらの丘フェスティバル」が始まり、家族連れやカップルで賑わった。6 月 14 日まで。

バラのアーチにぎわう

浜松市西区の浜名湖ガーデンパークにある「花美の庭」で、バラが見頃を迎えている。バラのアーチが開放された 16 日、来園者で賑わった。

渋川つつじ祭り始まる

県指定天然記念物の約 4,000 本の渋川つつじが楽しめる「渋川つつじ祭り」が 16 日、浜松市北区引佐町の渋川つつじ公園で始まった。祭りは 31 日まで。

(平成 27 年 5 月 17 日 中日新聞 朝刊)

浜松市緑化推進センター「見本園」

ひと昔前は水田や湿地で頻繁に見ることが出来た植物が、浜松市南区大塚町の市緑化推進センターに整備されている。水草のコウホネや白い花が咲くミツガシワなども植えられている。

(平成 27 年 5 月 16 日 中日新聞 朝刊)

緑や樹木に関する記事 15-24

河津の花菖蒲園 来月閉園

河津町田中の町営「かわづ花菖蒲園」で、12,000本のハナショウブが次々と開花している。6月に閉園予定のため、今季で見納めになる。町はハナショウブの産地をPRしようと、1998年に開園した。入園者は2003年には7万人に迫ったものの、減少が続いて昨年は1万人を下回った。維持費もかかることから、閉園を決めた。

(平成27年5月15日 中日新聞 朝刊)

緑や樹木に関する記事 15-23

富士山麓 森林すっきり

県富士農林事務所は13日、富士山麓の修景を目的とした間伐事業で、昨年度に富士、富士宮両市で52ha整備したと発表した。富士山の世界文化遺産の登録を受け、観光客の通過が多い県道沿いで実施。

(平成27年5月14日 中日新聞 朝刊)

緑や樹木に関する記事 15-22

台湾の花好き 呼び込め

浜松市西区の浜名湖かんさんじ温泉観光協会などが今春から、訪日台湾旅行者の受け入れに力を入れている。台湾の旅行代理店にはままつラワーパークなどを売り込んだ結果、4月からの実績で約千人に達した。

(平成27年5月12日 静岡新聞 夕刊)

緑や樹木に関する記事 15-21

掛川 ハナショウブ

6月に花の季節を迎えるハナショウブが、掛川市原里の「加茂荘花鳥園」で早くも咲き始め、来園者を驚かせている。早咲き品種をさらに開花が早まるよう鉢植えし、工夫をこらして開花させた。

(平成27年5月12日 中日新聞 朝刊)

羽衣の松「衰え」指摘

静岡市が世界遺産三保松原のシンボル「羽衣の松」を調査したところ、実施した県樹木医会から「樹勢が衰退している」と指摘を受けていることが11日分かった。根の周辺が踏み固められるなどの影響が認められた。

(平成27年5月12日 静岡新聞 朝刊)

緑や樹木に関する記事 15-20

富士で全国バラサミット

富士市で来年5月13日、「全国バラサミット」が開催される見通しとなった。サミットには、バラを市花などにして地域活性化を進める全国22市町の首長らが参加する予定。

(平成27年5月11日 静岡新聞 朝刊)

浮島ヶ原自然公園 サワトラノオ見頃

湿地特有の珍しい植物が群生する富士市中里の浮島ヶ原自然公園で、市の天然記念物のサワトラノオが見頃を迎えている。今月下旬まで楽しめそう。サワトラノオは絶滅危惧種で県内では浮島ヶ原だけで見られる。

(平成 27 年 5 月 10 日 中日新聞 朝刊)

山梨・河口湖町 シバザクラ見頃

山梨県富士河口湖町で富士急行などが開いている「富士芝桜まつり」の会場で、シバザクラが見頃を迎えている。約 2.3ha の敷地に 6 種、約 80 万株。

(平成 27 年 5 月 9 日 静岡新聞 朝刊)

緑や樹木に関する記事 15-19

全日本花いっぱい静岡大会 イメージキャラクター

静岡市で 9 月に開かれる全日本花いっぱい静岡大会のロゴデザインに使われているイメージキャラクターの愛称が「しず花ひめ」に決まった。

(平成 27 年 5 月 8 日 中日新聞 朝刊)

緑や樹木に関する記事 15-18

松崎の長九郎山 シャクナゲ見頃

松崎町の北東部に位置する長九郎山で、ピンクや白のシャクナゲが見頃を迎えている。

ツツジ 35000 本満開

伊豆の国市の観光施設「伊豆の国パノラマパーク」でツツジの花が満開を迎えている。葛城山山頂の空中庭園では、ミヤマツツジとキリシマツツジ 35000 本が咲き誇っている。

(平成 27 年 5 月 3 日 静岡新聞 朝刊)

富士の中央公園 赤、白のバラ多彩

富士市の中央公園のバラが見頃を迎え、1 日、バラのライトアップが始まった。約 200 種(約 750 本)の赤や白など多彩な花々が来場者を迎えている。

かわづ花菖蒲園 最後の営業開始

河津町の「かわづ花菖蒲園」が 1 日、今シーズンの営業を開始した。園には約 60 種、12000 株が植えられている。同園は、今季いっぱい閉園する。

伊豆・修善寺虹の郷 藤棚 250m

伊豆市の「修善寺虹の郷」で藤の花が見頃を迎えた。同園の日本庭園にある全長 250m、幅 5m の藤棚では一面に薄紫色の花が咲いている。

伊東・小室山公園 ツツジ 10 万本

伊東市の小室山公園で 10 万本のツツジが見頃を迎え、約 35000 m²の敷地を鮮やかなピンクに染め上げている。

(平成 27 年 5 月 2 日 静岡新聞 朝刊)

河津バガテル公園 再開

第三セクターの経営不振により町直営で出直すことになった河津町の観光バラ園「河津バガテル公園」が営業を再開した。レストランの廃止や売店の統廃合で経費を圧縮するが、1100 種 6000 株のバラは存続する。

(平成 27 年 5 月 1 日 中日新聞 朝刊)

緑や樹木に関する記事 15-17

ブナやケヤキ 富士で 2000 本植樹

富士市大淵の市有林で 29 日、ブナやケヤキなどの苗木 2000 本の植樹が行われた。「富士山麓ブナ林創造事業」の一環で、市民や市職員ら約 500 人が植えた。

(平成 27 年 4 月 30 日 静岡新聞 朝刊)

熱海・姫の沢公園 花まつり

熱海市伊豆山の「姫の沢公園」で 29 日～5 月 6 日、恒例の花まつりが開かれる。園内に約 6 万株育つツツジは大型連休の後半には見ごろを迎える。

掛川・加茂荘花鳥園 アジサイ新品種発表

掛川市原里の加茂荘花鳥園は 28 日、アジサイの新品種「ハッピー」を発表した。同園が 1999 年に開発した品種「ダンスパーティー」から派生した。

(平成 27 年 4 月 29 日 静岡新聞 朝刊)

緑や樹木に関する記事 15-16

ガーデンパーク フラワーパーク フジやツツジ満開

浜名湖ガーデンパークの花美の庭では、池に架る太鼓橋で紫色のフジが満開。池の周りはシャクナゲやボタンも見頃になっている。はままつフラワーパークでは、白色のオオデマリと紅色のツツジが鮮やかな対比を見せる。

(平成 27 年 4 月 28 日 中日新聞 朝刊)

「ぐりんぱ」21 万本のチューリップ

富士山麓の遊園地「ぐりんぱ」で、21 万本のチューリップが見ごろを迎えた。今年は植え付け面積を 3 倍以上の 4500 m²に拡大し、「チューリップの小道」エリアを新設した。5 月中旬ごろまで楽しめそう。

(平成 27 年 4 月 28 日 静岡新聞 朝刊)

緑や樹木に関する記事 15-15

シャクナゲ 13,000 本

伊豆市の道の駅「天城越え」などで 25 日、恒例の「石楠花まつり」が始まった。5 月 10 日まで。約 500 種、13,000 本が次々と花を咲かせている。

(平成 27 年 4 月 26 日 静岡新聞 朝刊)

緑や樹木に関する記事 15-14

磐田市つつじ公園

磐田市見付のつつじ公園では、62,000 m²の広さに、キリシマやミヤマなどツツジ 30 種、3,500 株ほどが、五分咲き。5 月初旬まで楽しめる。

伊東市小室山

伊東市の小室山公園で、40 種 10 万株のツツジが見ごろになり、小室山つつじ祭りが 4 月 29 日から 5 月 5 日まで開催。

(平成 27 年 4 月 24 日 中日新聞 朝刊)

緑や樹木に関する記事 15-13

東光寺と林泉寺 ナガフジ見ごろ 牧之原・吉田

牧之原市と吉田町の 2 寺院で、ナガフジが見ごろを迎えた。牧之原市静波の東光寺では、市指定天然記念物「東光寺の長藤」が五分咲きとなった。吉田町片岡の林泉寺のナガフジも五分咲き。

藤枝の蓮華寺池公園周辺

藤枝市若王子の蓮華寺池と周辺で来月 5 日まで、恒例の藤まつりが開かれている。20 種類、260 本の藤は今週末に見ごろを迎える。

(平成 27 年 4 月 23 日 中日新聞 朝刊)

緑や樹木に関する記事 15-12

湖西でトキワマンサクまつり

湖西市神座の神座川上流にある県天然記念物のトキワマンサク群生地では19日、トキワマンサクまつりがあり、約千人が満開の花や朝市を楽しんだ。

(平成27年4月21日 中日新聞 朝刊)

はままつフラワーパーク「葵植物展」

浜松市西区のはままつフラワーパークで、徳川家康公顕彰400年事業に合わせて「葵植物展」が開かれている。約20種類を6月15日まで。

(平成27年4月21日 静岡新聞 朝刊)

緑や樹木に関する記事 15-11

シバザクラ見頃 伊東公園

伊東市湯川の伊東公園でシバザクラが見頃を迎え、来園者らはピンクに彩られた公園の春を楽しんでいる。見頃は今月末まで。

袋井市・可睡齋 大輪ボタン

袋井市久能の秋葉総本殿可睡齋ぼたん苑で、「ぼたんまつり」が開かれている。5月6日まで。

(平成27年4月19日 中日新聞 朝刊)

チューリップ1万本

長泉町東野のヴァンジ彫刻庭園美術館の「クレマチスガーデン」で、遅咲きのチューリップ約20品種計1万本が見頃を迎えている。見頃はあと1週間ほどの見込み。

(平成27年4月18日 静岡新聞 朝刊)

緑や樹木に関する記事 15-10

フラワーパーク ヤエザクラ 白フジ競演

薄桃色などの花びらが重なって丸く咲くヤエザクラが、浜松市西区舘山寺町のはままつフラワーパークで満開になった。白フジも咲き、鮮やかに競演している。

(平成27年4月17日 中日新聞 朝刊)

「天下一」高遠桜見ごろ

全国有数の花見の名所、長野県伊那市の高遠城址公園は、「天下第一の桜」とも称される花が見ごろを迎え、内外から大勢の花見客で賑わっている。約 1500 本のタカトオヒガンザクラは、小ぶりで赤みの強い花をつける。昨年より 1 週間早い今月 9 日に満開になった。

ネモフィラ、芝桜満開

浜松市西区村楡町の浜名湖ガーデンパークで 18 日から、「スプリングフェスタ2015」が開かれる。一面に咲くネモフィラやチューリップ、バラなどの春の花が楽しめる。

(平成 27 年 4 月 16 日 中日新聞 朝刊)

熱海・植物研究園 園内を無料開放

熱海市相の原町の新技術開発財団・植物研究園は 28 日まで、見頃を迎えた草花を楽しんでもらおうと園内を無料開放している。現在は、シダレモモ、ミツバツツジが咲き誇り、1 週間後にはクマガイソウやアマギシャクナゲなども見頃になるという。

熱川バナナワニ園 ジェードバイン鮮やか

東伊豆町の熱川バナナワニ園でひすい色の花房をつける「ジェードバイン」が見頃を迎えている。和名は「ヒスイカズラ」。

(平成 27 年 4 月 16 日 静岡新聞 朝刊)

森・小国神社 シャクナゲ見頃

森町一宮の小国神社でシャクナゲが見頃を迎えた。30～40 年ほど前に植栽されたセイヨウシャクナゲが広がる。見頃は今後 1 週間ほど。

(平成 27 年 4 月 15 日 静岡新聞 朝刊)

伊豆 修善寺虹の郷 早咲きシャクナゲ

伊豆市の修善寺虹の郷で、早咲き種のシャクナゲが見頃を迎えた。約 2ha の「シャクナゲの森」に約 150 種、2100 本が植栽されている。一番の盛りは 4 月下旬になりそう。

沼津 宝珠院 多色な大輪ポタン

沼津市東原の宝珠院の境内で、約千株のボタンが次々に咲き始め、色とりどりの大輪の花が訪れる人の目を楽しませている。

沼津の「築山」 松移植へ根回し開始

沼津市は 13 日、同市で進める津波避難用人工高台「築山」の建設現場に存在する松の移植に向けて、新しい根を生えさせる根回しの作業を始めた。

(平成 27 年 4 月 14 日 静岡新聞 朝刊)

フラワーパーク 台湾の旅行客が散策

浜松市や浜名湖花フェスタ実行委員会が誘致した台湾の団体旅行客が 13 日、西区のはままつフラワーパークを訪れ、園内を散策した。

(平成 27 年 4 月 14 日 中日新聞 朝刊)

緑と花の百科展盛況 富士

第 87 回緑と花の百科展が 12 日、同市の中央公園で開かれた。バラの苗木の無料配布のほか、花木や草花約 1 万点が廉価販売され大勢の市民で賑わった。

(平成 27 年 4 月 13 日 静岡新聞 朝刊)

裾野・パノラマロード

雄大な富士山の眺望で知られる裾野市須山の通称パノラマロードと温泉施設「ヘルシーパーク」の周辺で、桜と菜の花が共に見頃を迎えている。

「伊豆最福寺しだれ」満開

伊豆市の下小田の最福寺境内で固有種の枝垂れ桜「伊豆最福寺しだれ」約 30 本が満開を迎えた。2002 年に日本花の会から新種と認定された。

(平成 27 年 4 月 11 日 静岡新聞 朝刊)

「狩宿の下馬桜」見頃

日本五大桜の一つと称される国の天然記念物「狩宿の下馬桜」が見頃を迎えている。樹齢 800 年以上と推定される日本最古級のヤマザクラ。

絶滅のサクラソウ復活

沼津市浮島地区の住民を中心につくる「浮島沼自然・里づくりの会」が、浮島沼で昭和 30 年ごろに絶滅したサクラソウを同市原の狩野川西部浄化センターで育てている。

日本の造園理念学ぶ

中国浙江省の温州地域で造園屋緑化設計などを手掛ける民間企業でつくる「温州市園林緑化建設業協会」の視察団が 9 日、御殿場市の秩父宮記念講演を訪れ、日本の造園や公園設計に関する理念などを学んだ。

(平成 27 年 4 月 10 日 静岡新聞 朝刊)

ミヤマツツジ見頃

牧之原市静谷の勝間田公園に群生するミヤマツツジが見頃を迎えている。三栗山の山頂付近を中心に約 1 万本が自生。花は今月 18 日ごろまで楽しめる。

(平成 27 年 4 月 10 日 中日新聞 朝刊)

緑や樹木に関する記事 15-6

「箱根西麓森林塾」開講

NPO 法人三島フォレストクラブは 5 月から来年 3 月まで、森づくりを担う人材を育てる「箱根西麓森林塾」を開講する。

(平成 27 年 4 月 9 日 静岡新聞 朝刊)

緑や樹木に関する記事 15-5

ブラックアイリス開花

はままつフラワーパークで育てている、中東ヨルダンの国花「ブラックアイリス」が 7 日未明、園内の温室で初めて開花した。漆黒の花弁の開花期間は 5 日程度で今週末までは楽しめる見込み。

(平成 27 年 4 月 8 日 静岡新聞 朝刊)

緑や樹木に関する記事 15-4

三島で「みどりまつり」

第 77 回三島みどりまつりが 4,5 の両日、三島市の長伏公園で開かれた。花苗や植木に 9200 人が集まった。

樹齢 120 年の名木 ヤマザクラ満開

浜松市天竜区春野町の犬居小静修分校跡地で、樹齢 120 年のヤマザクラが満開になり、見頃を迎えている。

ミヤマツツジ 600 本が見頃

浜松市天竜区横山町の宝珠院で、ミヤマツツジ(コバノミツバツツジ)が見頃を迎えている。

(平成 27 年 4 月 7 日 静岡新聞 朝刊)

緑や樹木に関する記事 15-3

ヨルダンから寄贈 ブラックアイリス

国交樹立 60 年を記念しヨルダンが昨年、日本に贈った国花「ブラックアイリス」の展示が 4 日。はままつフラワーパーク大温室で始まった。

(平成 27 年 4 月 5 日 中日新聞 朝刊)

御殿場で桜まつり

御殿場市東田中の秩父宮記念公園で 4 日、御殿場桜まつりが始まった。樹齢 130 年余りの枝垂れ桜がライトアップされている。

(平成 27 年 4 月 5 日 静岡新聞 朝刊)

菜の花畑一面に

県内唯一の有人島の初島で、初島公園周辺に群生している「菜の花畑」が見頃を迎えた。

(平成 27 年 4 月 3 日 静岡新聞 朝刊)

三島の遺伝研 桜 200 種 咲き競う

日本屈指の品種数を誇る 1 日限定の桜の「名所」が三島市の国立遺伝学研究所にある。10 万㎡の敷地を囲むように 300 本のサクラが並び、つぼみを膨らませる。200 種あり、咲いてる数種類でも花の大きさや色の濃さがさまざまだ。

(平成 27 年 4 月 3 日 中日新聞 朝刊)

緑や樹木に関する記事 15-2

駿府城公園ライトアップ

静岡市葵区の駿府城公園の桜が満開を迎え、市が 1 日からライトアップを始めた。公演中央の沈床園と北東のお堀沿い約 120m に咲く桜を日没から午後 10 時まで照らす。

(平成 27 年 4 月 2 日 中日新聞 朝刊)

緑や樹木に関する記事 15-1

沼津御用邸記念公園 西洋スイセン見頃

沼津市下香貫の沼津御用邸記念公園で、西洋スイセンが見頃を迎えている。歴史民俗資料館の西側を中心に 20 種類ほどで、3 月中旬ごろに咲き始めた。種類によって開花時期が異なるため、今月末まで楽しめそう。

ソメイヨシノがピンクのアーチ 伊東・伊豆高原

伊東市八幡野の桜並木通りと桜のトンネル通りで、ソメイヨシノが満開を迎えた。

(平成 27 年 4 月 1 日 静岡新聞 朝刊)

ネモフィラ一気に開花

浜松市西区村櫛町の浜名湖ガーデンパークでは、花木園のシバザクラと水辺花壇のネモフィラが一気に開花し、鮮やかな「花じゅうたん」が広がっている。

丘を彩るアーモンドの花

浜松市北区都田町のフルーツパーク時之栖で、アーモンドの花が咲き、来園者らを楽しませている。

(平成 27 年 4 月 1 日 中日新聞 朝刊)

水目桜満開 島田・川根町家山

島田市川根町家山の一本桜「牛代の水目桜」が 30 日、満開になった。地元住民有志によるライトアップが行われ、春の宵に淡紅色のかわいらしい花が幻想的に浮かび上がっている。この桜は推定樹齢約 300 年のエドヒガン。

(平成 27 年 3 月 31 日 静岡新聞 夕刊)